京城日報

二十九日夕刊

本紙定價　一部金二錢五厘　一ヶ月金[illegible]錢　三ヶ月金九拾錢　六ヶ月金壹圓七拾錢　▲郵券代用二割増

廣告料　▲五號活字一行金七拾錢　▲特別欄內一行金[illegible]　[illegible]

發行兼編輯人　丸田直毅
印刷人　谷口政太郎
發行所　京城太平通一丁目　合資會社　京城日報社
電話番號　編輯局三四五番・營業局一二四番　振替貯金口座京城三〇〇番

●太公殿下京城御著

直ちに龍山總督官邸に成らせらる

露西亞皇帝陛下の御名代として御來朝遊ばされたるミハイロウヰッチ太公殿下には御歸國の途次陸軍少將タチシエフ、外務省極東課長コザコフ、ドクトルブルンネン、陸軍大佐カホヴスキー、同ムハーノフ、同ベザワク、侍從試補アイフロヴスキー、アレキサンドル博物館附モギリヤンスキー諸氏外八名の諸員を從へさせられ從者寺內總督、安達公使、木村式部官、中島陸軍少將、森海軍少將、田中海軍大佐等の接伴委員並に釜山まで奉迎せる井口軍司令官、大屋鐵道局長官、立花警務總長等扈從し奉りて二十九日午後六時十分臨時特別貴賓列車にて龍山驛に御著相成り直ちに龍山總督府官邸に入らせらる

日露親善

極東永遠の平和の爲に　正義人道の勝利の爲に

▲北滿開發と日露の協同

東清南滿朝鮮三鐵道の責務

朝鮮鐵道局長官　大屋權平

露國皇帝御名代としてゲオルギー、ミハイロヴヰッチ太公殿下の御來航は日露の親善に一段の濃密を加へたる事改めて喋々する迄もない今後に於て日露兩國親善の實は所有方面で擧げらるゝであらう吾人の期待は決して鮮からぬ事を信じて疑はぬ所である其

◆國交其極に在り　日露の最も密接な接觸を有する處は言ふ迄もなく北滿である、嘗て滿洲に於て日露は干戈を交へはしたものゝ是が大なる誤解に出でてゐた事の悟られた日露戰役後に於ては日と共に其親善の度を加へられ最近歐洲戰爭勃發と同時に兩國の交誼は更に急速に進み行き軍器の貿却の如き其他日本は殆ど其爲し能ふ限りを爲して居る

◆永遠の親善也　世に説を爲す者あり、此日露親善は要するに一時の現象に過ぎないと爲すも、予は此説に反對である、然して日露の親善は決して一時的の現象でなく此機を利用して一段の進境を見た根蔕よりの日露兩國真の親善であつて今後年と共に濃厚の度を加へて行くべきものと信じて疑はぬ

◆北滿開發は兩國の任　北滿は日露兩國親善の實を擧ぐべき最も密接な緊急な地點は前にも言ふ樣に北滿である、北滿には現に露國側から東清鐵道が蜿蜒し、其れと聯絡して我が南滿鐵道がある、兩々相扶助しつゝ鐵道の目的を遂しつゝある、既に爲すべき所は爲しつゝある、雖し乍ら予は更に進んで右東清南滿兩鐵道のみならず、北滿の事は總て日露兩國を以て經營すべきであると言ひたい、北滿の產業は日露兩國で爲すべきであると言ひ度い、是れ北滿開發の實を擧ぐるに於て最も理想的なる方法であり斯くて初めて日露兩國當初の利も擧り爲に支那が恩惠を蒙る事も蓋し鮮からぬものと信ず

◆即ち提携を要す　北滿の富と言つても決して一言によく之を云云すべき限りでないが、單に大豆計りにしても其の一斑を窺知する事が出來ると思ふ、大正二年度に大連に集つた大豆が六十餘萬噸(米噸)ある此の總數は總て北滿からと言ふ譯でもないが、更に同年度の長春驛發の二十萬噸も一般に北滿の大豆の總額とも言へない、即ち現に此位の

だが、施設宜しきを得て開發せんには尙幾多の餘地ある事茲に言ふ迄もない、予は繰返して北滿の產業開發が日露兩國共同の事業とせざるべからざる事を言ふものである、

◆大陸經營と鮮鐵　然して北滿の事は啻に北滿のみを以てすべからざる事も言ふ迄もない、即ち日本內地及び朝鮮との關係決して鮮少でない、此爲に特に大正三年一月以降日本滿洲間直通運賃の割引を實行してより、貨物の朝鮮鐵道を通過して徂徠するもの次第に多きを加へ大正三年度朝鮮通過二萬七千噸價格一千萬圓を超ゆるに至つた是れ朝鮮鐵道の大陸に對する位置の一部を語るものであるが、更に是等も層一層激增せしめて行く要のある事勿論であり又其責任は一に本邦人の双肩に掛るものと信ず

▲實業家の接近を至囑す

要は人事を盡すに在り

原　勝一

◆日露の親善　日々に篤きを致すの時に當り太公殿下の御來朝あり其の往復の途上當地を御通過あらせられ吾等亦これを御送迎申上ぐる事を得たるは最も光榮とする所なり日露の關係をして愈益密接ならしめんには兩國民互に其國情を相知るを最も必要とすと雖も、今日迄北鮮的其然るを見ざりしは甚遺憾とす

◆朝鮮の如き　其國境を接したるから、調査の據る可きもの尠きに於ても其樣殊に多しとす、曾て予は大倉組の嘱を享けて浦鹽に航し、露領の一端を瞥見したるに過ぎずと雖も、若し兩國の實業家にして今一段接近し、兩國民の聯絡關係等を調査したらんには、或は有望の商取引を結ぶに至る可きも、目下の所貨の交換不可能なると、關税の過重なるとに因り、未だ容易に取引の見込立つ可しとは思はれず、然しながら今後平和克復し、經濟狀態亦平調に歸するに至らば

◆朝鮮米の如き　は多少の需要起る可き見込あり、朝鮮牛の輸出も爰兩三年は兎も角として、四五年も經過せば露政府が極力黑龍江沿岸に向つて出發したる畜產獎勵の發達に依り露領亞細亞は勿論、露本國の需要を充して尚餘ある牛の產出を見るに至る可ければ、朝鮮牛の輸出は前途望少なく、果物とても到底牛と同樣なるべしと思はる、以上は鮮露貿易の大要なれども、貿易關係と國際關係とは必ずしも直ちに並行す可きものにあらず、假令日露間の商取引が現在に於ては圓滿に行はれんとするも、兩國の關係

◆歲月と共に　密を加ふるに伴ひ、這般の不便は自らにして除去さるに至るべし、今日を好機として兩國益々親善の度を加へ、殊に彼我實業家が相進み寄り接近の實を擧げむことを要望して已まざる也

●中村都督入京

中村關東都督は露太公殿下奉迎の爲め廣中參謀、江藤副官、矢野翻譯官等を隨へ二十八日午後旅順發京城に向け出發せり、南大門驛著入京は三十日朝なる可し

ДОБРО ПОЖАЛОВАТЬ!

Мы, всѣ японцы, съ глубочайшей радостью и съ открытымъ сердцемъ привѣтствуемъ ЕГО ИМПЕРАТОРСКОЕ ВЫСОЧЕСТВО Великаго Князя Георгія Михаиловича.

Желаемъ счастья, славы и процвѣтанія Россійскому ИМПЕРАТОРСКОМУ Дому и всему Русскому Народу.

奉迎

日本國民は滿腔の歡喜と熱情を以てゲオルギーミハイロウヰッチ太公殿下を奉迎し光榮の長へに露國皇室及び露國々民の上に在らんことを祈る

●隨員接伴員の宿所

露國ミハイロウヰッチ太公殿下の隨員並に接伴員は殿下の御宿泊所たる龍山總督官邸及び朝鮮ホテルの二個所に左の如く分泊す

龍山官邸

ドクトル　ブルンネン氏
陸軍大佐　カホブスキー氏
侍從試補　アイフロブスキー氏
接伴員　木村式部官
外に從者四名及び滿鐵社員一名

朝鮮ホテル

陸軍少將　タチシエフ氏
外務省極東課長　コザコフ氏
陸軍大佐　ムハーノフ氏
同　ベザワク氏
アレキサンドル博物館附　モギリヤンスキー氏
接伴員　安達特命全權公使
同　中島陸軍少將
同　田中海軍大佐

●伊太利大使突然昏倒

今後の容態氣遣はし

本邦駐剳伊太利特命全權大使グイッチョリー侯は近く賜暇歸國すべき筈なりしに二十八日午前一時頃突然昏倒せるより附近の醫師を招き應急手當を施へたる上築地聖路加病院長並に西郷、青山兩博士の診察を仰ぎ夫人及び同館員の看護を受けつゝ專ら加療中なるが何分七十三の高齡なるを以て一同今後の容態を氣遣ひ居れり　病症は兩博士診斷の結果腎臟病より尿毒症を併發せられたるものなりと大使は明治四十一年十一月來朝既に八箇年の久しきに及んで本邦駐剳列國使臣中の第二の古參大使にして來月下旬には歸國の途に就く豫定にて既に家具の大部分は荷造をせられありたりと

▲聖上御軫念　葉山御用邸に御避寒中の　聖上陛下には大使重患の趣を聞し召され御軫念あらせられ優詔を賜はりたれば戸田式部長官は同日同大使館を見舞はれたり(東京特電)

▲別報　東京駐剳伊太利大使は二十七日夜大使館に於て突然昏倒し爾來加療大に努めつゝあるも容態危篤に陷れり(東京電報)

●墺國皇帝容態不良

羅馬來電に據れば墺國皇帝は卒中にて急に倒れ危險に瀕せりと法王廳に於て傳へらるゝ所に據れば墺國皇帝の容態は徐々不良に向ひたるものゝ如し(紐育電報)

●英國陸軍增兵三百萬

英國陸軍は更に三百萬を加ふる案を議會に於て協贊を經たり(倫敦電報)

●獨勃兩帝會見の影響

倫敦來電に據れば獨勃兩國皇帝の會見は巴爾幹の民心に影響するものあり聯合國側爲に不安を抱きつゝありと(東京電報)

●帝國四軍艦の南支急行

帝國軍艦潮、朝風、若葉、子ノ日の四艦は重大任務を帶び南支那に向つて急行す可しと(東京電報)

●雲南軍白柳清を占領す

上海來電に據れば雲南軍は氣勢猛烈にして遂に白柳清を占領したりと(東京電報)

●蒙匪革黨と連絡を通ず

錦州北方方面は近日蒙匪益々横行して官憲は其の討伐に苦心し居れると云ふが該蒙匪等は夙に革命黨と連絡を通じて一大計畫をなし居るが如しと(奉天特電)

●岑孫握手

岑春煊來朝し孫逸仙と握手して雲南獨立軍の應援を謀る可しとの說あり(東京電報)

●調停失敗

北京來電に據れば熊希齡の南北調停周旋は失敗に歸したりと(東京特電)

●歐洲戰場へ苦力

露國は這般戰爭の爲め戰地各處の鐵道を破壞せられたるを以て之れを修理する爲め多數の支那苦力を北滿地方に募集して歐洲に輸送したり(奉天特電)

●金物日々騰貴

釘亞鉛類の市價日々に騰貴す(東京電報)

●高商卒業生の捌口好し

高等商業學校卒業生の捌け口好しく供給不足の有樣なり(東京電報)

●滿洲學事視察團

滯京中なりし滿洲關東州公學堂長鹿子生儀三郎氏外十四名の朝鮮教育視察團は京城より二十九日午前四時平壤驛著即日平壤公立高等普通學校同女子高等普通學校第一第二普通學校等を參觀の上午後三時二十分發の列車にて安東縣に向へり(平壤特電)

●候補生見學

練習艦隊乘組候補生一百名は二十九日午前九時三十分より小河原觀學の案內にて京城高等普通學校を參觀せり

●水兵の見物

練習艦隊乘組員增田少佐以上將校十四名、下士卒五百七十九名は二十九日午前九時二十分南大門驛著入京、准士官以上は總督府官吏の案內にて下士卒は四組に分れ警官の案內にて市中を見物せり

●中學校柔道大會

京城中學校にては二十九日午後零時半より同校道場に於て第四回柔道大會を開き、數十番の試合あり、參觀者堂に充ち頗る盛況なりき

人事消息

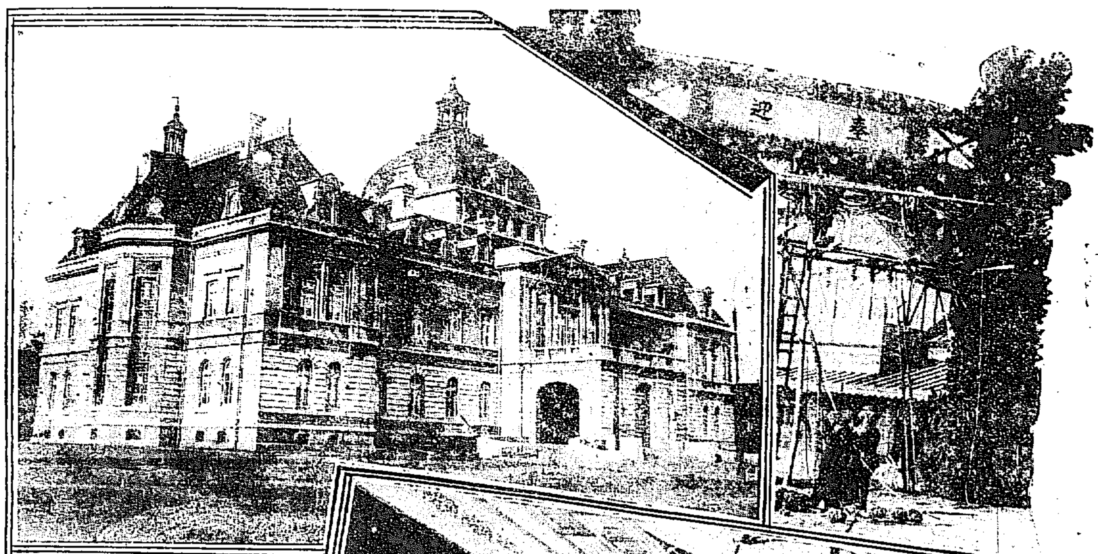
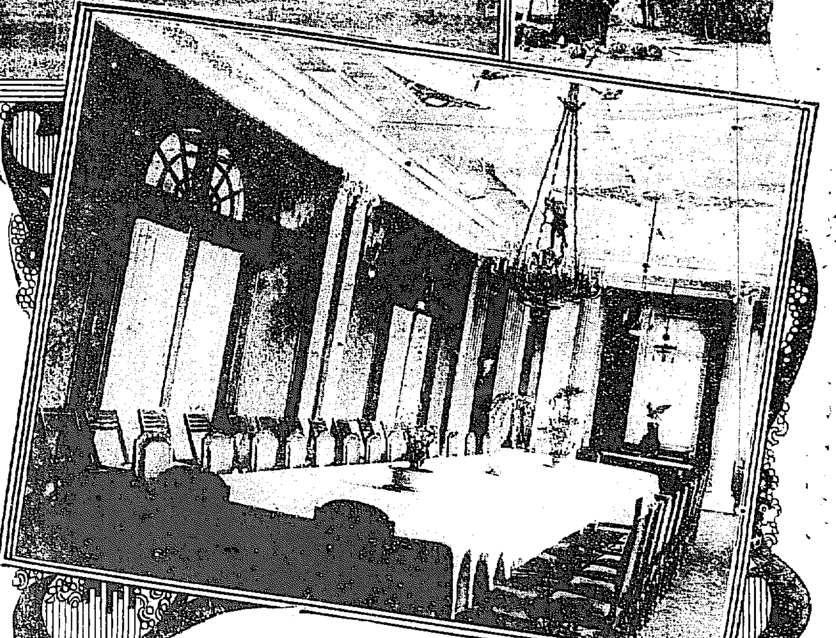
▲三木武重氏(鐵道營業課長)　廿八日釜山著停車場ホテルに投宿
▲上田恭輔氏(滿鐵秘書役)　同上
▲ルーズ氏(露國總領事)　同上
▲大屋權平氏(鐵道局長官)　同上
▲村井因憲氏(京城第一憲兵分隊長)　廿八日下の關より連絡船にて釜山著鳴戸支店投宿
▲佐藤三郎氏(技師車輛課長)　廿八日釜山著大池旅館投宿
▲佐々木慶南道長官　廿七日釜山著大池旅館に
▲前田勞務部長　同上
▲平田稔氏(哈爾賓總領事館在勤)　廿八日午後內地より釜山著同十一時發列車にて北行
▲グロイスキー氏(滿洲駐在露國領事)　廿八日午後南大門驛著汽車にて入京露國領事館に入る
▲水越理庸氏(朝鮮銀行理事)　二十八日午後七時五十分南大門驛發汽車にて東京に向ふ

●佳賓を迎へ奉る
御機嫌最麗はし 一路平安京城へ

あらゆる赤誠を捧げて歡び迎へ奉つれる、日本國民の眞情に深く御滿足、限りなき喜びの御印象を殘して、御歸朝あそばさるべきグオルギー、ミハエロウヰッチ太公殿下の御一行を搭載しまつれる軍艦鹿島は供奉艦敷島と共に海路恙なく、利鎌にも似たらん冬の弦月、高く海上に懸りたるが漸く絶影島の上に傾ける二十九日午前四時三十分靜かなる曉風を衝いて、赤崎半島の南側に到着せり

◆此の日朝來風靜かにして

海上又波浪穩かなり、俄にして東の空漸く白み來りて、遙かに水平線より差昇れる太陽は燃ゆるばかりなる光りを投げて、靜かに睡れる紺靑の海面、紅色に輝き渡れば、瑠璃と澄める朝の空には一片の雲もなく、此の日の榮に悅び禁ぜざるものゝ如く晴れ渡れり、斯くて、鏡の如き港頭遙かに雄風堂々たる御召艦鹿島、供奉艦敷島の艦影黑く霞みて見ゆる間もあらせず、八時十分ともなれば、太公殿下には隨員一行を隨へさせられ供奉艦敷島の舷する

奉迎 (右)龍山驛前の奉迎門(左)御旅館龍山總督官邸(下)御旅館大食堂

◆殷々たる皇禮砲の響きの裡

乘組員一同の奉送に對し深く御名殘りを惜しまれつゝ御退艦、艦首に掲揚せる日露の國旗の朝風に翩翻として飜へれるに御召艦に御移乘相成れば寺內總督は同じく諸員と共に艦載汽艇に搭乘、靜かなる海面を辷べつて八時二十五分稅關棧橋に御著、隨行の文武官、寺內總督、村上第三艦隊司令官、鹿島、敷島兩艦長以下各將校其の他の諸員を隨がへさせられ

◆御機嫌いと麗はしく御上陸

あらせらる、殿下には同棧橋に御出迎へ申し上げたる立花警務總長、京城駐在露國總領事ルッチエ氏、大屋鐵道局長官、上田滿鐵秘書役、佐々木慶尚南道長官、前田同警務部長、若松釜山府尹、堀井同驛長等に厚き御挨拶を賜はりたり。棧橋には盛裝を凝らして堵列せる海軍々樂隊の露國々歌を吹奏せるあり、嚠喨たる樂の音は、波靜かなる海面に傳はりて莊嚴の氣、四邊に滿つ、斯る間に殿下には鞠躬如として御前に進める堀井驛長の御先導にて、驛構內に向はせられたるが港頭より驛構內第一プラットフオームに至る道の兩側には軍艦鹿島並びに敷島より派遣せる海軍儀仗兵

◆一個大隊威儀を正して整列

せるに續いて、市內の日鮮小學校、中學校、商業學校、高等女學校、高等普通學校の職員生徒、在鄉軍人、陸軍儀仗兵等無慮數千名堵列して奉迎す、その他港內に碇泊せる大小船舶は何れも此の日を晴れと滿艦飾を施し、市中の各官衙會社商店その他は各戶國旗を掲げて歡迎の意を表し奉れり、斯くて殿下には是等熱誠なる出迎員に對し、絕えず擧手の禮を賜ひつゝ、豫て浦鐵より廻送しありたる御召列車に御搭乘、麗はしき御滿面に晴れやかなる御微笑を湛へられいと御名殘り惜しげに、御見送り申上げたる艦隊各將校、並びに重なる

◆高等官驛長等に御握手を賜

はり、それより列車最後尾の展望臺に御起立あり、寺內總督その背後に侍せられたる裡に正九時を以て進行を始めたる列車のプラットフオームを離れて奉送者の姿の見江ずなるまで御起立あらせられたるには奉送者一同の深く感佩せるもの丶如かりき、尙ほ太公殿下の

◆御名を記せる大貨物廿餘箇

ありその內には宮內省、大阪砲兵工廠その他內地に於ける知名商店の名を記しありしを見れば宮內省その他の獻上品又は御買上品と覺しく格子様に造られたる大箱の中には赤松、檜、躑躅などの收めあるを見たり尙ほ太公殿下御坐乘の光榮に浴せる鹿島敷島兩艦は二十九日午後三時拔錨舞鶴に向へり(釜山特電)

▲大邱御通過

露國太公殿下の御召列車は二十九日午前十一時大邱驛に御著、プラットフオームには臼水臨時派遣隊司令官以下同將校並びに相當官百三十五名の外中山覆審法院長、黑川同檢事長、柳澤地方法院長、大村同檢事正、竹崎府尹、入澤第一吉村第二部長松本慈惠醫院長その他の官民無慮數百名並びに陸軍儀仗兵、市中日鮮各小學校職員生徒等堵列して御出迎へ申し上ぐ、太公殿下には途中三浪津まで御出迎へ申し上げたる李慶北道長官、臼水司令官に御握手ありその他の出迎へ諸員に對しては一々擧手の禮を賜はり軍隊の吹奏せる君が代の曲の終る十一時五分御發車あらせられたり(大邱特電)

▲大田御通過

露國太公殿下には二十九日二時三十一分大田驛御著プラットフオームには守備兵一個中隊の外官民學校生徒其他約二千名奉迎、御召列車の駐まるや殿下には寺內總督を隨がへて列車の昇降口に立たせられ御機嫌麗はしく出迎への官民に對して擧手の御答禮あり寺內總督を顧み種々御下問あり之れに總督は一々佛語にて御答へ申上げ諸員奉送の裡に二時三十五分御發車遊ばされたるが鈴木忠北、小原忠南道長官、齋藤同警務部長は途中まで御出迎へ申し上げ烏致院まで御見送り申上げたり(大田特電)

●善美を盡せる 御旅館の設備
薰香彩燈を罩めて 輝き渡る龍山總督官邸

露國太公殿下の御旅館に充てられたる龍山總督官邸には二十七日より多數の係員出張して內外の清掃に忙しく二十八日は階上階下五十有餘の各室の大掃除を行ひ窓硝子を拭くもの、スチームの點火を試むるもの、椅子の位置、卓子の据ゑ付けに蝶々たる人々の働き振り眼まぐるしき許りなりしが斯くて御滯京の當日たる二十九日の正午に至り各室全部の裝飾を終り只大食堂のみは三十日午餐前に裝飾を行ふことゝなつて只假りの設備が出來て居る

＝御居間＝

階上西北隅の室こそ即ち昨秋閑院宮殿下の御居間に當てられたるもので今回も亦太公殿下の御居間に充てまつらすことゝなり約十五疊敷とも思はるゝ室の一隅スチームに近く殿下御用の兩袖の机を置き机上には赤黑二種のインキ壺及び蒔繪の硯箱等を揃へ和洋兩様の卷紙封筒を添へられてある若し殿下が正面し給はゞ遙かに漢江の末流に

▲眞晝片帆を眺む 好景色

である左側の書架上には盆栽を置かれてある中央には大卓子を中心として黑皮張り四箇の大形安樂椅子を配置し部屋の周圍には大小十數個の椅子を列べ又其次の十疊間には圓形大卓子を据ゑて隨員の用に立てられて居る

▲此御居間の特長 とも云ふ

可き御部屋の周圍金贈が黑色なる所へ天井の純白なると金色燦然たる彩燈と云ふ色の配合なれば却々に壯麗を帶びて氣高く壁には山水花鳥三幅の名畫を掲げられ彼方には黑臙石製の金時計が微妙の音を立てゝ居る

＝接見室＝

白臙石の階段を引りて左すれば即ち殿下の接見室で前記の御居間とは斜向の部屋で約十疊位中央には絹張白塗の圓形卓子に牡丹色金具仕立なる殿下の御椅子を据き一方には四折に仕立てたる

▲山水の刺繡いと 精巧な

る屏風を立て室の四隅には綠濃き常盤樹の盆栽を陳べたるさへあるに更らに正面大鏡の前には大形の花瓶に時ならぬ珍花を挿入されてある所は開放されてあつても華氏の六十五度內外と云ふ

▲スチームの暖さ にてさ

ながらの春心地である御居間の溫味を帶びたるに比して此室は多少華美な飾に見受けらる

＝御寢室＝

階上の南側日當りよき八疊の間で黃金色した大形のスプリング式御寢臺の上には純白の御夜著羽毛製の御枕等を整頓し極めて落付ある御寢室である御寢室の横手は八疊

▲二間の日本間で 此處は

侍從侍從武官の方の寢室に充てられて價高き香料の薰馥郁として御室所の隅々迄流れて居る

＝其他の裝飾＝

御旅館には殿下の外隨員九名宿泊することゝて階下の二三室は是等の人々の部屋と、其他部屋と云ふ部屋全部に亘り

▲大清潔法を施し 二十九

日の午後からは室內の要所々々に燒付香水を立て階段の下圓柱の側等隅々に配られたる六十數箇の盆栽爛漫と相映じて宛然仙境に入つた様な感じがする、正門は日露兩國旗を紫の總を以て結び衞兵所の裏手には紅白の幕もて圍はれた臨時衞兵所が設らへられ排水溢砂等の手入も出來て殿下の御著を今や遲しと待ち構へて居た(二十九日正午記)

●供奉し參らせて
山紫水明の風光に御感興特に深し
＝接伴員 臼井陸軍少將談＝

予は太公殿下の嚴島に向せらるゝ前に於て御缺れ申上げて歸任したが太公殿下には宮島御泊の御豫定で初めから御暇があれば御上陸と定められて居つた處である宮島の風光は殿下の御旅情を慰め奉りしに相違なく殿下には神戶御上陸以來我國朝野の熱誠な御歡迎に到る處

■山紫水明の風光

に對し悉く御滿足に思召され殊に我皇室の御待遇はいと鄭重を極めさせられ將來益々兩國皇室の御懇親を加へさせらる事たらんと恐察する處である御滯京中の殿下は御公式の御參內の後在京中の伏見、閑院、東伏見、久邇、朝香、東久邇、北白川、竹田の各宮殿下邸を御訪問遊ばされ各宮殿下には何れも御禮裝遊ばされて御邸の御車寄に御出迎へ遊ばされ太公殿下を應接室に請せられた

■五分間苑御挨拶

の御交換を遊ばされ猶伏見閑院兩宮邸の御饗宴に御成り遊ばされ種々と御物語りを交はされたる御兩國皇室の御親和の爲めに慶賀に堪へざる處である殿下は御滯京中英佛米伊の各大使館をも御訪問相成り十四日には恰も露曆元旦に相當したので駿河臺なるニコライ教會堂に成らせられ御祈禱を遊ばされた十七日は午前から接伴員以下を隨へさせられて日光に御成り遊ばされ家康秀忠家光の三廟及び記念寶物館等を御覽あそばされ家光將軍の遺跡等を御觀覽あそばされた寶物館では遺物の品々を深き

■御興味を以て觀

せられ殊に家康の甲冑を御賞美遊ばされた、それより種々の美術品を御買上げの上午後一時五十分御歸京遊ばされ二十一日御退京に就き二十日午後零時タキシエフ少將以下各隨員寺內總督以下各接伴員を隨へさせられ御告別の爲めに御參內あらせられ天皇陛下に御對顏、御滯在中皇室の御優遇に對し叮重なる御挨拶を述べさせられ午後には兩陛下の御答禮を受けさせられ二十一日午前東京驛發箱根に御休憩二十三日午前八時京都御著市民の熱誠なる御歡迎を受けさせられ御少憩後直ちに桃山御陵に御參拜あらせられ

■大花環を神前に

捧げ給ひ二十三日午後大阪へ成らせられ砲兵工廠に赴かせられ製造の模様を御覽ありそれより各方面御巡覽の上京都に還御あらせられ二十四日には午前より御即位式場御所二條離宮を拜觀の後、ハリスト教會に御立寄り遊ばされ織物工場等御覽遊ばされ同日住吉の久原家へ御成り遊ばされ即日京都還御二十六日には京都市內御巡覽の上

■種々の御買上物

を成されて同日午後京都御發二十七日午前廣島著宇品より軍艦鹿島に召させられ供奉艦敷島を隨へさせ潮、朝風の兩驅逐艦御警備の中に上呉港に御碇泊宮島に成らせられ昨日午後宮島を御出發御歸還の途次本日御入京遊ばされるのであるがこの長途の御旅行中常に御健祥なのは實に悅ばしいことである

△宗教界消息▽

(三十日日曜日)

▲京城日本基督教會(長谷川町)○○○○○○○ 日曜學校は午前八時五十分より說教は神戶人平(午前十時)井口牧師人顯と下樽勸物(午後七時半)同上

▲メソヂスト教會(旭町二)○○○○○○○ 三十日午前九時十五分日曜學校午前十時半禮拜說教「法律と自由」

▲京城基督教會(南米倉町)○○○○○ 說教「新生とは何ぞや」山本牧師午後七時半 ……次郎の三氏

●速射砲的お椀のお代り
少尉候補生京城の一夜

三年間の雨露風雪に天晴れ國家の干城たれと鍛へられた懐かしの母校なる江田島の山影しりへに一人前の少尉となる前一年の海上生活に海の猛者たる修練を積むべう一月半ば身を乗せた練習艦磐手吾妻の候補生一百名は

□彈痕新たなる青島十年の昔を語る旅順との戰跡を見學し□

て仁川に入り廿八九兩日は京城に溌剌たる風姿を驅け廻はらせてゐる二十八日は朝九時に仁川から南大門に著き電車に分乗して直ちに昌德宮に赴き秘苑をぬけて動植物園、博物館を見徒歩パコダ公園の大理石塔を訪ひ更に鐵道ホテルに到り午餐を喫め德壽宮を參觀して宿に行つた宿は吾妻の五十名が原金に行き磐手の五十名は浦尾と京城ホテルに二十名と三十名に分宿させられてゐる未來の提督の宿の模樣や如何にと先づ原金に訪問すれば指導官折田少佐は快活に記者を迎へ候補生は木幡中尉が案內して部屋々々を案內する

□何樣血氣旺盛な意氣衝天の若武者揃ひ其れも五十人と云ふ數□

なのだから五六間打ツ通しの廣間に一杯と云つた有樣、各自に宿の褞袍に著替へて此方の隅にはパチン〱と碁を闘むかと見れば彼方の隅では三五人朝鮮滿洲比較論をやつてゐるかと思ふと中央に据ゑた蓄音機が勇ましやマーチの曲に興を添へてゐる、幾人かの女中許りでは足りないで帳場から加勢に來て膳が並ぶと執る箸の歩みも早く此方からも彼方からも

□お代りの茶碗が女中めがけて恰然機關砲か速射砲の彈の樣□

一時の喧囂の後夫れが濟むと廣間の正面中央に壇をしつらへると浪花節が始まる之れは總督府から特に餘興として寄贈されたものだと云ふ其處に浦尾と京城ホテルからの五十名が一緒になつて稀に見る賑やかさ、流石規律に育つた候補生のみの集りとて唯蛙鳴蟬噪とは多少趣きを異にしたのは何處となく床しい處である其間に三々伍々市中の散策に出る連中もある—浦尾を訪へば同じく候補生附加藤中尉は殆んど出拂つた候補生の留守居役然と

□恰も此日半舷上陸で同じ宿に居合せた同僚の數人□

と一緒に輕い盃を廻はしてゐる『何しろ練習艦隊が低ふして航海中に候補生を外泊させる樣な事は殆んど無い事ですからね、是れから鎮海、舞鶴、神戸、大阪等を經て三月の末に横濱に行き東京を見學して陛下に拜謁を被仰付れた上四月半には愈々遠洋航海に上る譯ですが

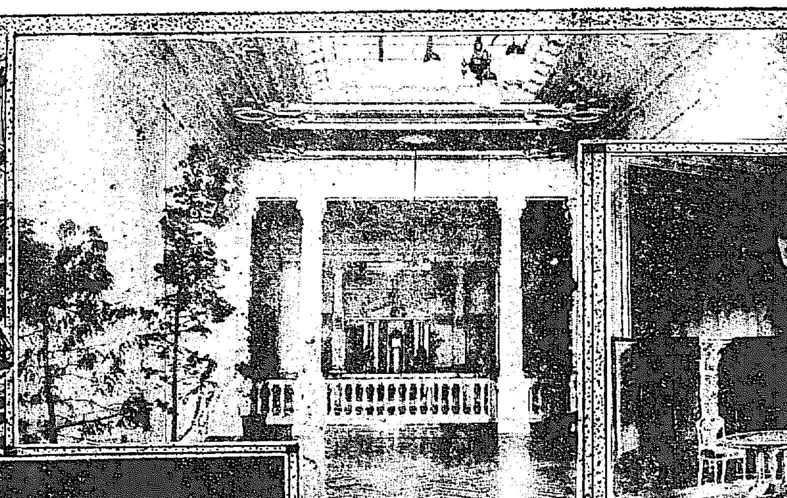
□恐らく一年間の遠洋航海中とても此樣な事は無いでせう□

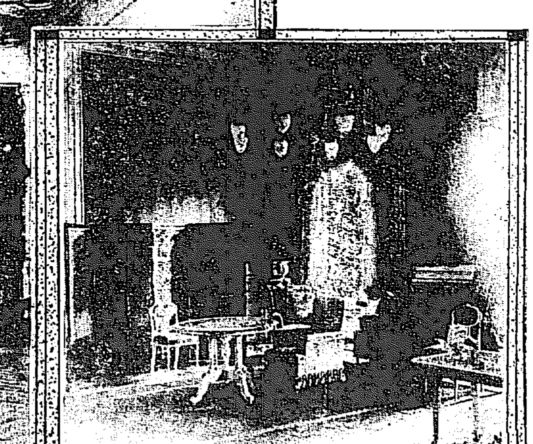
一體我々海の者は』と加藤中尉は潮風に曝されてキリヽとした眉を上げて語る『海上生活許りしてると陸が此上なく戀しいものですよ、貴殿方が陸に居つて海を思ふのと我々が海から陸を戀ふのとは全然趣を異にしますからね一側からも論議風發して青島や旅順は殆んど戰跡のみが觀物なのですが京城となると又見所が變つて來ますね、昌德宮參觀の時も

□此宮は日本の宮中で言へば鳳凰の間とも云ふべきだ□

と說明してやつた時候補生一同一種の感に打たれてゐました』と又方面をかへて『遠洋航海では何處も彼處も樣子が異つてまして見る物聞く物總て皆耳目に新たな譯ですが殊に濠洲が一番興味が深い樣ですね、何しろ今年は前後未曾有の大戰爭があつてるんですから候補生もいつもでは見られない現象が見られて愉快でせう』と仲々に議論の終りもつかぬ、そしては『艦の上は非常に柔かだなア』と同僚を顧る無邪氣さ、健やかなれ海の守護の若猛者達。

御旅館の內部
(右)接見室(上左)階上廻廊(下左)御居間





……貿易額は移出六千六百十八圓移入十七萬二千百九十九圓合計十七萬八千八百十七圓にして此れを大正四年同月に比すれば移出に於て一萬九千二……昨年一月以降は牛皮の需要激增し殆ど移出額の八割以上に達したるも本年一月は需要殆んど底止の狀に在る……北他諸雜貨は多枯れに際したる昨今と雖も需も衰えざるを以て移入超過は實に十六萬五千六百圓に達したり金塊は本年の暖氣異常にして採金事……十六萬七千圓……七千圓即ち十二萬圓の增加を示したる次第なり

▲稅關吏移動 平壤稅關出張所庶務主任……

……定を以て賊候生徒共第二學年生約百五十餘名は何日午前七時より一時間駈足三年生約八十名は同じく擊劍……

◎連絡船上陸客 廿八日午前釜山入港高麗丸一二等客一百七十名……

商況

東京株式特電
受渡株數二十七萬四千〇六十株此代金二千六百〇六萬五千八百四十圓一株に對する平均値段九十五圓十二錢

東京債券現物特電
二十九日出來値段(前日との比較)
東洋拓殖 七二、〇〇 —
朝鮮銀行 一五七、五〇 —
南滿鐵道 一五〇、五〇 —

東京公債直取引電
二十九日出來値段(前日との比較)
五分利特別 九五、九〇
甲號四分利 八三、〇〇
乙號四分利 八四、〇〇
[illegible] 九五、五〇

深川在米特電
二十九日現在高
朝鮮米 一九〇、〇七八
[illegible]米 九八、二七六
內地米 二二〇、八七六

東京期米特電
廿九日前場 二月限
一三六九 一三七九 一三六八 一三七四

大阪期米特電
二十九日前場
當限寄付 一三八一
中限寄付 一三五〇
先限寄付 一四三三

雜報

◉期米棹尾の活躍
[illegible]

◉染料漸く落付 此邊天井
染料界は昨今漸く人氣落付を示し……

人爲的釣上策が主力
[illegible]

輸出と窃かに上海方面へ
[illegible]

安値も現れ難なり
[illegible]

◉糖界の昨今
[illegible]

下關相場
[illegible]

各地商況
○木浦(二十六日の穀物) 米況(不味) [illegible]

南大門の廻米
[illegible]

◉洋鐵値下げ
四分六分丸 五分丸 百貫二十八圓 十五圓方の引下げ

◉燐寸ご高報
神戸相場 二十七圓五十錢 著原價の四十九圓 五十錢處

現狀維持 多少の下押

◉關東の製粉界
[illegible]

仁川現物市場
[illegible]

仁川期米
◉二十九日前場 七錢高の入電 三十錢ご暴騰 折柄大阪六節二 十六錢と安移り 戰裡に散會 [illegible]

前場大變動
物顯れ利喰に新規に賣 錢と瓦落 遂に〇四 [illegible]

▲當限納會す
此間波瀾重疊 [illegible]

▲前場の大商內
大商內大盛況 [illegible]

▲賣買旺盛
大買思惑起り動 [illegible]

秋に非ず小材料に拘泥
[illegible]

▲期米强弱觀
生値を下た廻り 二限又然り [illegible]

一市場零閒

前場の大激戰
[illegible]

五圓六十錢より十四圓二十錢臺に瓦落
居ず彈の壓迫 重荷を脊負ひ込み 實米化 現下の正米 見て割安を感ず 買思惑の餘地充分 約一割減の說多 引合い已に移出は不 [illegible]

▲買方の暴勢
何處迄も買試みる方策の得 何か異變の件 奇現象を呈 無理高を演 買煽り手段に外ならず 大勢に逆行 穩當を失する學 大に警戒の要 [illegible]

仁川米豆取引所
二十九日の三月限
[illegible]

中學世界 滿誌活躍の三月號
記憶と思考……浮田博士
青年と立憲思想……浮田博士
冒險生活危險くらべ……赤松高田
科學を彩れる七大發明……
先生と生徒……
珊瑚を碎く……
定價二十錢郵稅二錢

冒險世界
墓標の底(探偵奇譚)……阿武天風
丸裸の國王……
救貧主の巨頭……
列强の飛行機……
犬吠岬物語……
血染の屏風……
獨鵩の慘害……生田葵
定價十五錢郵稅一錢

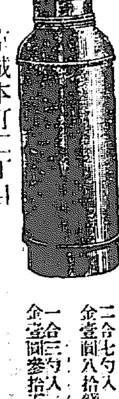
東京本町 博文館

小兒科專門 內科
京城旭町三丁目(元十全病院跡)
若槻醫院
ドクトル メヂチーネ 若槻覺隆
電話二四六番

比較は最良の選擇法なり
サクラ正宗 サクラ正宗
京城明治町一丁目
山邑京城支店
電話八四九番 振替京城五七番

陸地測量部御發行
二万五千分一 京城近傍地圖
同部發行五萬分一朝鮮地圖既刊五百五十枚
一切前金に限る 照會必要返信料
小林又七朝鮮出張店
龍山漢江通六 電話五二〇番

イケダ小兒病內科醫院
京城三越呉服店前へ入る旭町四丁目
電話(醫院)一二三四 (自宅)八八〇番
池田季雄

旅行者銃獵家は快樂を 賢母は愛兒の健康を增進せらる
魔法瓶を備へて

二合七勺入 金壹圓八拾錢
一合三勺入 金壹圓參拾五錢
舶來 イヅラ 魔法瓶 特約店
京城本町二丁目
熊平支店
電話六二番 振替京城二二番

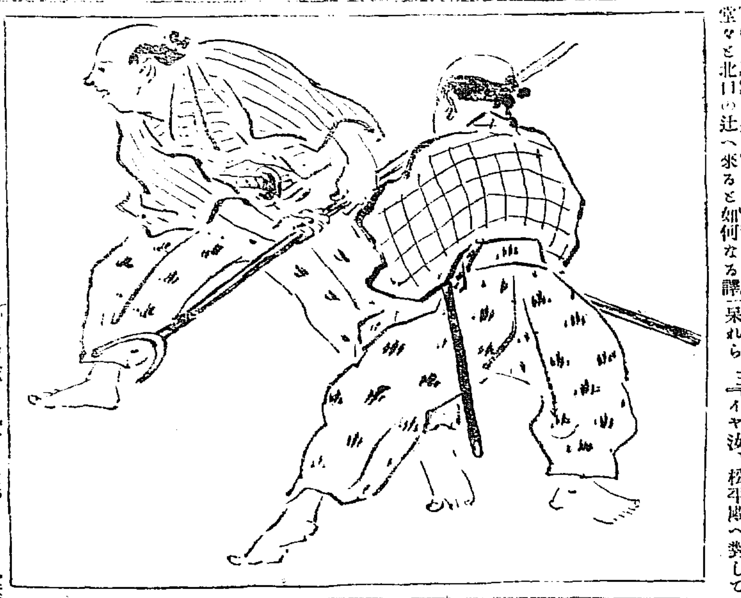
豫報
京城溫度 [illegible]

越後大評定

第百十五席 早川貞水口演

松平掃部頭の初登城

何人も後へ踐つて辻を破はし人がない。兵『其ぢや何人も後へ踐るものは嫌だから、辻を破はす役目は籤で決めよう。伴『それが宜から』其から籤を抽くと市原伴九郎が當つた。伴『アヽ、巳が當つた。兵『然うか。伴『もう斯うなれば仕方がない』と早や破はし掛けつ。兵『まだ餘り早い皆が來ない内に行つては早すぎる』伴『ナアーニ構ふことはない』と提灯などを破り始める。與『マア待て〳〵』と云つて居る所へ、三方の御辻に於て制止聲を掛け堂など北口の辻へ來ると如何なる譯か制止聲を掛けない、バラ〳〵ッと馳け來たつた皆川三太夫と云ふ供頭が、三『コレッ北口の辻を堅める足輕共座眠をして居るか只今若殿松平掃部頭殿御登城に相成る、殊に初めて御親子御對面の大切な御登城、何故あつて制止聲を掛けない』五人は下うつ向いたまゝ平氣な顏をして居る。三『コレ、汝等相分らぬのか、如何いたした』戲ら怒鳴つても知らぬ顏、三『コレッ込の足輕共、上を向けつ』と 兵『何事だアー』恐ろしい大きな聲イヤ三太夫驚いて 三『汝なんだ其聲は、左樣な馬鹿〳〵しい大きな聲を致して聲者は居らぬぞ 兵『默れなんだと—怪しからぬ奴だ辻を預かる足輕が、座眠りをして居つて役目が勤まるか、座眠りをして居るかとは何事だ、無禮な奴だ 三『誰が掛けない 三『松平掃部頭殿の初登城』兵『松平掃部とは何人のことだ。三『何人の事だ。元老小栗殿の一子大六殿、御當家御相續、改めて松平掃部頭と仰られ、今日御親子御對面に相成るのだ。兵『默れ、そんな無道な奴に制止聲が掛られるか。三『ナニ無道な奴だと。兵『無道に違ひない、吾々ごとき成り下つた無道と、無道の性質が異ふぞ、吾々のは本場の衞菊、假令成り下つても、味ひは優れて居るのだ、何だ大侍奴、汝等ごとき者に、制止聲を掛るやうな腐つた御辻番は此處には一人も居ない、松平掃部が聞いて呆れら。三『イヤ汝、松平殿へ對して惡口雜言その分には捨措かれぬぞ』刀の柄へ手を掛ける 與『其分で措かれで何うする、此骨ッ節のある足輕の身體へ刀物が立つなら立つて見ろ』三『何を小癪な』スッと三太夫鞘を拂ひましたから 兵『イヤ汝不埒な、御辻を荒すかッ』と云ふと待設けたる市原伴九郎、御定紋の付いたる提灯をビリ〳〵ッと引裂く、膝鑑を向うへスッと投付ける、其内に羽目の邊から障子の邊を破はし始める掛合つて居る方より、破はし始める方が早い、此方は袖搦を執つてバーラバラ打込んで行く『ソレ抜いた御辻へ對して亂暴狼藉』三『コレ〳〵孰方が狼藉だ『何を小癪な』ブーンブーングヮツーラグワラ振、或は六尺捧を執つて五人の足輕が御行列中へ打つて入ると、右左へ叩き付け、袖搦、捩でピシッ〳〵とやるから『アヽ痛いッ』『痛いやうにするのだ』到頭大手雁木坂十八町まで追崩す、其勢に御行列の人數に怪我人が多く出來ました、此大騷動が相分りました時に中老役、御ため方の一人岡島將監馬を飛ばして乘付ける



お聞きなさい

▲九十四で結婚 此程の事米國ブライマウスのディビスと云ふ九十四歳の老人はもう死ぬのを忘れて了ひましたとばかりで土地の寺院で嬉しそうな鐘の音を聞き乍らメイコンと云ふ三十九歳の夫人と此老人は結婚した此老人には四十一人の子供があつて三十三人生きて居る、孫は百九十二人ある結婚式には息子が二十五人孫が百人以上列席したが此厄介な花聟は四度目の結婚で若い者も及ばぬ水々しい體軀をして居るそうな

▲自分は遞信省の檢査官 山口縣玖珂郡岩國町藤井直一（三九）は元電信技手をして居つた經驗あるを幸ひ山口縣上關郵便局に赴き自分は遞信省の檢査官であると突如電信室に入り係り員を遠ざけ他の郵便局に向つて八百圓の電報爲替を送り之を詐取せんとし、處を化の皮が剝て拘引された

▲列車深谿に落つ 米國シヤトル來電によれば一列車は同地を距る百二十哩の山中にて雪崩に遭ひ車輛二箇は深さ三百呎の溪谷に落込み十四名の死者と數多の負傷者を出した相だ

▲猫入らずで心中 埼玉縣北埼玉郡星河村石島敬之助（二〇）は村内原飲食店の酌婦櫻井倉（二二）に熱くなりしも夫婦となれぬを悲觀し二十三日深夜用意の鼠捕藥『猫入らず』を最中へ入れて互に食し心中を謀り苦悶中を救はれたが生命危篤

▲富士頂上の寒行 東京々橋區新榮町皇祖主神教會の行者原照原（四八）は雪中富士山上で寒行するとて廿一日午後御殿場から蕎麥粉五合を携帯して登山したが、當日山上は稀有の大風雪であつたから一同心配してゐるが廿三日夜まで何等の消息なく多分凍死したのだらうといふ噂さ

一月三十一日九星 舊十二月廿七日 丁卯 本命一白 北滿友引

▲一白 是非の隔有日 新事見合西方は吉暗 ▲二黑 ...

演藝案内

大正館
櫻井町 電話八七三番

廿六日より大寫眞提供 ○實寫サロニカの實況 ○喜劇ダンマルク會社最近傑作 ○軍事大探偵大活劇 黑裝束 全三卷 △市國の機密を探らんとして...△探偵と共に少壯の豪傑...△段に訴へ暗夜黑影... ○新派家庭劇『まごころ』全三卷廿八場 ○舊劇三笑奇譚の俠 菅永樂德太郎 全三卷 入十一場

壽座
本町 電話五七八

廿八、九日替り 假名手本忠臣藏 大序より討入迄 配役 判官、早野勘平、妻させな、百姓 彌作、清水一角（鯉三郎）娘おかる、斧定 お石（梅若）藥師寺二郎左衞門、母おかや 九郎（雷三郎）石堂馬之丞、斧 寺岡平右衞門（梅藏）加古川本藏、 九太夫、堀部彌兵衞（光十郎）桃ノ井 若狹之助、小林平八郎、茅野和助（長 太郎）高ノ師直、大星由良之助（長 特等七十錢一等五十錢二等三十錢三等十錢

黄金館
黄金町四丁目 電話二六三七 大然色活動寫眞株式會社朝鮮一手代理店

一月廿六日より提供の三大寫眞 ○日本古典寫眞劇 白虎隊 全三 ○維新史傳 ○泰西探偵大活劇 ○新派悲劇 回ろ春 全三卷

佐久良座
新龍山

新派自然劇團三輪實一行 一月三十日藝題 深山美人 十一場

浪花館
明治町 電話一六〇番

東京落語三遊派幹部一行 御祝儀寶之入船（三遊亭當三）二人旅 播州巡り（同三勝）伊勢參宮（桂圓之助）たらちめ（三遊亭遊三郎）道具屋 （柳亭春樂）動物音聲（三遊亭遊玉）即席紙彫刻（鶯宿亭樸陽）源平穴探（三 遊亭圓昇）時世笑話滑稽琵琶（瑯浦庵 三尺坊）小言幸兵衞歌舞（三遊亭遊三）大切座員總出即席笑話

御成座
御成町 電話二一九一

二十三日目藝題 人の妻 喜劇越後獅子

壽館
電話一〇五〇

京日案内

◉普通 一回前金三十錢（無割引）一回毎に金五錢増

◉給仕募集 齡十七八歳小學卒業以上 市内要確實保證人千円前履歴携帶來談 旭町一上る電一二五〇 朝鮮雜誌社 296

◉看護婦募集 希望者は履歴書携帶本人來談あれ 大門通三藤木商店横入 胃腸病院 252

◉古本 買入誠實 御報參上 京城本町一丁目（明治町筋）電話二六三六番（野村書店 301

◉看護婦採用 免狀或は有經驗者 本人履歴書携帶至急來談あれ 京城本町二丁目十六 贊化病院

◉番外 一回前金五十錢（無割引）

好職 利益多大美術ゴム事業老幼男女誰でも出來本業又は副業に適す志望者は來店又は郵券十錢送れ案内書及製品見本急送呈す 京城太平通二大漢門前太陽ゴム商會 302

茶花琴教授 免狀料廢月謝のみにて教授す 京城太平通二ノ一四一朝鮮公論社南側西入一丁南大門學校北裏 木本與志惠 300

京城日報 初號より四十三年末迄取揃へ相當代價にて讓受たし（住所姓名在社）

皮膚病 花柳病 專門 須古醫院 京城永樂町一商品陳列館坂の上 電話二〇二番 243

◉はねつき うちみ等 一切の治療御依頼に應ず 明治町 柔術道場 241

開業資及金貸 秘密確守し有方に對ては特に低利御相談に應ず 京城永樂町一丁目商品陳列館前横入 秦質店 250

和洋御料理壽司仕出しのんき 京城本町一丁目府廳横（元梅跡） 祝儀並精進料理 電話二四九五番

▲材料精撰○御中付次第速達仕候 279

ヴァイオリン教授 從來通堅實なる教授す日下入會好期 京城本町一丁目 元明治町勸商場跡 四絃會 218

寫眞器械 材料及藥品 直輸入商 コロタイプ印刷 大連市大山通 光明洋行寫眞部改め 佐野洋行

滿蒙處分論 陸軍クロパトキン將軍原著 日本大井包高譯 京城日報代理部 定價金一圓 郵稅本社負擔 振替貯金京城三〇〇

山東 原鹽 關東 鹽 再製 靑島 粉碎 各種販賣 仁川濱町八 鹽販賣所 電話二四〇

資本金壹百萬圓 創業滿三年 契約高貳千萬圓

八千代生命保險株式會社の特色

當社は全國唯一の確實なる非營利的組織にして最も進歩したる相互株式の兩長所を具備し保險料亦他に比して頗る低廉なり然して其收入保險料の全部は是を永久内地各府縣農工銀行朝鮮各道農工銀行に預入し地方產業資金となすにあり

八千代生命保險株式會社 京城支社 京城旭町三丁目五番地電話一一三番

京城代理店 唐川立造 京城明治町二丁目四六電話二六一番

恩給 立替 貸金

黃金町通櫻井町入軒西四ツ角 元祖 博多屋本店 電話二三一番

資本金 貳千百五拾萬圓 積立金 九百卅五萬圓

株式會社 第一銀行京城支店

京城本町二丁目（振替貯金京城一一番）

頭取 男爵 澁澤榮一

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候 内地朝鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候

贊化病院

京城本町二丁目 電話二四一番

入院隨意 普通病室並隔離病室

院長 醫學博士 古城憲治

尿。便。血液。喀痰等臨床的檢査の依賴に應ず（毎日五名を限り無料施療す）

醫化學諸器械一式

仁川本町 北島藥店 電話三三四・振替京城六七番 京城本町永樂町角 北島藥店京城支店 電話七六一番

藥種賣藥卸商

登錄商標 トツヨシ

高尚優美なる新裝御大典記念發賣

製造元 發賣 群山府全州通三丁目 石見屋商會 電話二二番 振替京城五五三番

各地有名菓子店食料雜貨店鐵道各驛賣店及列車内等にて販賣致候

朝鮮總督府警務總監部御檢定濟

花柳病專門藥

本劑は我商會が多年の實驗と最新學理の應用とに依り花柳病疾患に服用し安全に治療の目的を達し得る最新良藥也 詳細は說明書に記載し遠方は御照會次第回答す

徵毒一週間分普通金壹圓 特製金貳圓 淋病金貳圓

京城府永樂町二丁目（赤門筋交番北）

登錄商號 東京ドラッグ商會本部 製劑本舖 東京澁谷 東京ドラッグ商會

新刊書御案内

◉日本書畫骨董大辭典 池田常太郎 特一、二〇〇
◉格言大辭典 ... 二、〇〇〇
◉肥料的麥作改良法 鈴木千代吉 ...六五
◉小學校に於ける教育教授の實務 ... 一、五〇
◉小賣商店廣告法 清水正己 九〇
◉實用新聞雜誌廣告術 ... 五〇
◉新倫語 村上俊藏 特一、二〇
◉通俗講話四季の衞生 ... 八五
◉商家經濟中流生活法 ... 八〇
◉我等何を爲す可きか ... 六〇
◉隱元、木庵、即非 高橋竹迷 一、〇〇
◉詩傑乃木大將 ... 八〇
◉日蓮上人 ... 一、二〇
◉戀の秘訣 ... 五〇
◉女性中心說 レスターウォード 七五
◉貧乏と戀 ... 六〇
◉歐洲文壇印象記 ... 一、〇〇
◉美人草 ... 一、三〇
◉銃花 双紙 ... 一、三〇
◉朱欒集 ... 一、〇〇
◉踊 十字路 ... 八〇

京城本町電話二〇八六 振替京城二五七三 大阪屋號書店

純粹 牛乳 ヨーグルト 太正採肥醫獸場 京城鍾路通四丁目 東亞牧場（電話五二一番）

長男 文彦 葬儀の際は遠路厚情難有御禮申上候 御會葬被成下 大正五年一月三十日 父 壬生一夫

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行 淡路丸 二月四日 正午出帆 竹島丸 二月十八日 正午出帆 商砂丸 二月十二日 正午出帆

仁川港岸町十一丁目 電話 堀回漕部

大阪商船仁川出帆

○外航所屬航路（濟洲航路を除く）開通期間中の出帆時刻は五分引を以て連絡切符發賣仕候

○群山、木浦、釜山、關門、神戶、大阪行 汕頭丸 一月卅一日 午後五時出帆
× 天智丸 二月五日
温州丸 二月五日
○木浦、釜山、長崎行（▲は廣原島へ寄港）安東丸 二月九日 午後二時出帆
▲城津丸 一月卅一日
× 大連行 安東丸 二月五日 正午二時出帆 城津丸 二月十三日
◉群山、神戶、大阪行 大智丸 二月三日 後四時出帆
○チヨイサン丸、釜山、鎭南浦行 湖州丸 二月九日 午後四時出帆
△大連直行 △湖州丸 二月一日
○淸津、浦潮行 チヨイサン丸 二月四日 正午出帆 灌州丸 二月十四日
○地釜、北久丸 二月八日 午後二時出帆（元山出帆）
○上海、基隆、打狗行 湖北丸 二月十五日 午前四時出帆 安平丸 二月十六日（大連出帆）

御注意 ○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯絡切符發賣仕候 ○御乘船客は本船出帆前一時間前に御乘船被下度候 ×印は一等客御斷り △印は二等客御斷り

仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二〇番・五五〇番
京城切符發賣所 内國通運會社支店 電話七八〇番

中國四國沿岸各港行船客に對し當分の間門司より五割引を以て聯絡乘船切符發賣仕候

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戶、大阪行 立神丸 二月八日後五時出帆
○元山淸津浦鹽行 立神丸 一月 日後十時出帆
○門司、神戶、大阪行 小倉丸 一月 日後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 二月三日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、淸津行 第三翠平丸 一月三十日後九時出帆
○門司、宇品、神戶、大阪行 第三翠平丸 二月十日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 天興丸 毎月二日九日十六日廿三日 午後十時出帆

釜山本町通 大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

朝鮮總督府命令航路 芝罘、大連行 第一共同丸 二月三十日後二時入港 一月 日前九時出港
朝鮮總督府命令航路 大連にて營口、太沽、天津、芝罘へ連絡 乘客及荷物共に接續引受取扱仕候
城津、淸津、浦鹽行（元山出帆）第一阪鶴丸 月日後九時出港
西湖津沿岸各港を經て雄基行 第三共同丸（元山出帆） 月日前八時出帆

阿波國共同汽船株式會社 本町一丁目（電話一〇八番）山下回漕部
元山代理店 田口回漕部
大門電話（二六八、二〇七）京城取次店 河村運送店

朝鮮郵船

木浦 電話長一九五二番二三一番 振替京城一〇（電話二七〇）

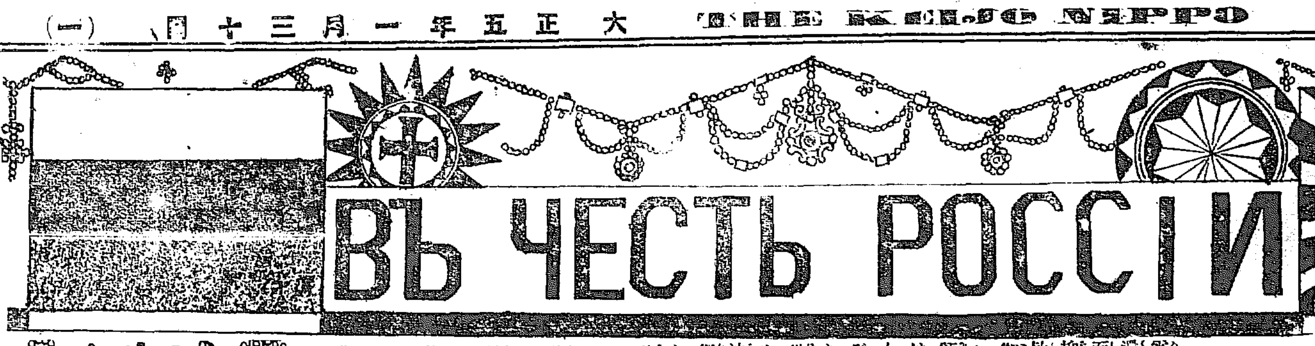
京城 全羅丸 二月十二日 釜山發
黃海丸 二月二日
成鏡丸 二月十六日
門司より釜山各港寄港連絡
穩城丸 二月三日 元山發
昌平丸 一月 日
鏡城丸 一月 日
元山より各港經由雄基行
永興丸 毎月廿八日 元山發
北久丸 又は長崎延長
盛德丸 二月五日 釜山發
江陵丸 毎日（釜山浦項）發
長生浦、方魚津寄港
三浦丸 二月一日 釜山發
長承浦、統營、巨濟丸 毎 釜山發
海州丸 巨濟丸 日
統營丸 殷寶丸
各港經由麗水行（三日目一回木浦行）
順天丸 三日目毎 木浦發
各港經由麗水行麗水より長山行に接續
慶興丸 二月一日 木浦發
公州丸 二月一日 木浦發
全州丸 二月五日 仁川發
江原丸 二月五日 仁川發
芝罘、大連、青島行
龍水丸 二月二日 仁川發
普州丸 二月七日 仁川發
錦江丸 毎日午前 仁川發
南陽丸
小安丸 二月三日 群山發 若松發

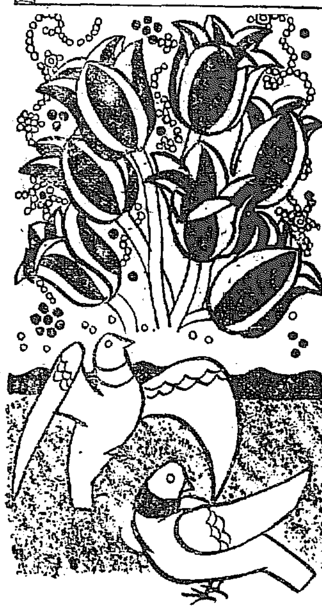
本社 電話長一九五二番 京城府南大門驛前 京城荷客取次店 松原運送店

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戶、大阪行 秀吉丸 一月八日後四時出帆
大有丸 二月四日後四時出帆
神代丸 一月三十日後四時出帆
鮫龍丸 一月 日後四時出帆
君が代丸 一月 日後四時出帆

仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部





豫期以上の成功

太公殿下の御使命

一月廿四日朝 東京に於て 蘇峰生

露國太公ゲヨルギ殿下の御使命は、豫期以上の成功を以て、愛度御歸還あらせられたり。是れ吾人が日露兩國の爲めに、且つ祝し、且つ慶し、而して更らに國際政局の一進轉たるを斷言するに躊躇せざる所以也。抑も露國皇帝陛下の御盛意に對し、我が皇室の如何に、鄭重、深厚、懇欵、慇懃なる待遇を、殿下に向て呈せられたるかは、何人よりも殿下自から御會得ありしたらむ。此れと同時に、我が國民の心からの御驩迎を申上げたるに就ても、定めて御嘉納ありしことと拜察する也。吾人をして正直に語らしめよ、曾て何れの國の帝室より特派せられたる親王殿下にせよ、又は大使にせよ、未だ我が太公殿下の待遇以上の待遇を、我が上下、朝野より享け得たる例なき也。此の如き破格の待遇は、知らず何物をか意味するぞ。是れ豈に日露兩國が、尋常の友隣より、更に一歩を進めて、相ひ接近する吉徵にあらずして何ぞや。吾人は此事に就て、尚ほ詳細に陳述せんと欲する事なしとせず。然も寧ろ之を沈默に附して、讀者の推測に一任するを以て、却て其の十分の意義を殫すを得るものと信ず。蓋し時としては、沈默は最上の雄辯也。所謂る以心傳心とは、此事にあらずして何ぞ。

但だ此際一言の已む可らざるものあり、そは我が寺內總督が、接伴長として其の勞に服したる事是也。若し太公殿下御使命の成功に就て、其勳勞者を數へば、彼の方面に於ては、姑らく置き、我が方面に於ては、其の一半を、我が寺內伯の肩上に措くを以て、適當にして、且つ公平なる判斷とせずんばあらず。寺內伯が如何に其の精到周緻なる注意をば、其の發強剛毅の手腕を以て、運用したるかは、我が接伴官一同の歎賞したる所にして、吾人は我が天皇陛下の爲めに、其人を得たるを、恐賀し奉るを禁ずる能はず。而して中心よりして、日本國民として、我が寺內伯に感謝の意志を表明せずして已む能はざる也。

惟ふに太公殿下が、如何なる御復命を、露京に於て爲させらる可き乎。將た如何なる具體的效果が、此の御使命より發生し來る可き乎。そは臆斷する迄もなく、寧ろ事實をして語らしめよ。必らず遠からざる中に、吾人を滿足せしむるものあらむ。

京城日報

三十日朝刊（第三千十五號）

本紙定價 一部金五厘 一ヶ月金五拾錢 郵送料一ヶ月拾五錢 ...

廣告料 ...

發行兼編輯人 ... 印刷人 卷口攻太郎

發行所 太平通一丁目 合資會社京城日報社

電話 ... 振替貯金口座京城二〇〇番

◎貴族院の形勢

二十九日貴族院の豫算分科會に於て臨時軍事費を可決したり三十一日豫算總會を開き分科會同様に可決し二月一日本會議を開き無事通過すべし而して還元問題に關しては其後に於て上院の態度決定すべし（東京電報）

◎兩軍大會戰茲十日以內

總統府側の聲言＝自流井は斷念

總統府側にては四川省の自流井は結局南軍の手に歸するものとして斷念し居れり尚ほ茲十日以內に南北兩軍大會戰あるべく獨立軍の運命を決する快報に接すべしと稱し居れり（北京特電）

◎北軍增援隊重慶著

二十七日重慶發來電に曰く同地にては西方の形勢に關し信憑するに足る報道を得難し北軍の增援隊は既に到著せり重慶にて戰鬪を行はるべしと思惟さる（上海特電）

◎北京政府の革軍觀

鎭定遠からずと做し表面樂觀

某所著電に據れば北京政府にては今回の革命軍を目して一時的のものと爲し彼等は軍資武器缺乏甚しく且つ有力なる後援者を有せざるを以て永く戰鬪を維持する能はざる可く政府にして攻守其道を誤まらずんば鎭定遠からずと信じ表面頗ぶる樂觀を裝へり（東京特電）

◎北京政府檢閲嚴密

北京政府の檢閲極めて嚴密なるを以て西部支那の形勢依然として不明な

り雲南よりの來信は海防を經由し同地及び香港にて檢閲を受け居れり尚雲南叛徒は著々四川省を侵畧して奏功しつゝあるが如し支那電信局は貴陽と成都間の交通故障を生じたる旨二十九日發表せり（上海特電）

◎重慶形勢不穩

重慶來電に據れば形勢依然不穩なりと（上海特電）

◎支那新年と嚴達

舊新年は二月二日より四日迄にて支那各官衙は皆休廳するも不穩警戒の際なれば官吏の飲酒遊戲を禁じ人民の賀禮に出づるを禁ずるの嚴達出でたり（奉天特電）

◎墺國民軍召集

アムステルダム來電に據れば墺國は四十七歳及四十八歳の國民軍を召集せり（倫敦電報）

◎歐洲航路の二路

日本郵船會社の歐洲航路は喜望峰迂廻に決したるも社外船は依然航路を地中海に取る可しと（東京電報）

◎北滿の米人開墾

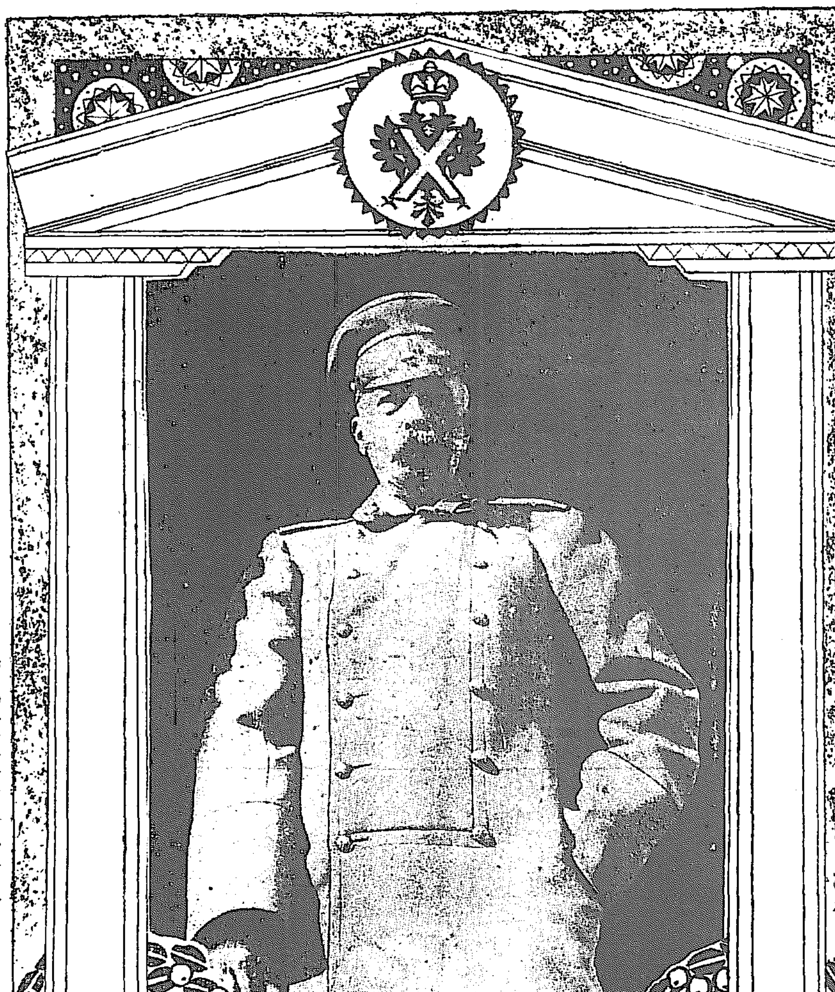
哈爾賓在留の米人ハーロン氏一昨年より黑龍江省富錦縣の江北額勒密地方の廣大なる荒地の貸下を得て開墾に從事せし處二回の大水に逢ふて全耕地水中に掩沒して資本を蕩盡したるが今度更に本國より資本を呼びて之に投下し沿江の地面には大規模の堤防を作ると（奉天特電）

◎蒙古不穩と北京政府

支那政府は蒙古に不穩の形跡あり往年祥福が獨立を宣せし如き事あるを虞れ蒙藏院より二名のものを宣慰使として派遣したるが兩人は廿八日朝滿鐵線にて北行せり（奉天特電）

◎陝西險惡と匪徒猖獗

北京來電に據れば陝西西北部は最も不穩を極め一團の匪徒は大同府を距る僅かに八十哩の地點なる平魯縣を占領し更に前進しつゝありとの報あり政府は救助隊增遣の爲め全力を盡し居れり匪徒の一隊は其數七八千と注せらる（北京特電）



露國太公殿下

▲良品は經濟なり
▲我社の製革は强靭にして舶來品を凌ぐ

朝鮮永登浦
朝鮮皮革株式會社

京城南大門通り一丁目
朝鮮皮革株式會社販賣店
電話一〇八二番

▲我社の製革は堅牢にして耐久力に富む
▲而して其價格は頗る低廉なり

大倉組
京城出張所

第二部 三月限 四月限 一二三、四〇 一二四、一〇 一二三、五〇 一二四、五〇 五月限 六月限

大阪期米特電（廿九日） 一二六、五〇 一二六、八〇

▲賣場の商戰 …三錢さ崩れ…は又手仕舞買物多く無事にも下押さず大阪十三十五錢の大電に接したるも六錢と返して散會 （◎千二百石以二千二百石買今四百石） …げたるも大阪…と返して散合したり市況は此迄旬正月前と月末に際し居る關係上手仕舞向內多く幹部筋の見送りに稍〻拔けしたる感あり殊に前場の大變動大…の如く賑入…

…錢等にて氣配變らず保合 △正米 地場中沽十圓十五錢二十錢二十五錢神力十圓六十錢江華島中白米十圓八十錢等にて力武辻川三井等七八百俵出米氣配變らず保合 △大豆 …らざる人氣なるも商談行はらず

後場（寄付 止〆 高値 安値） 十一圓二十一錢 十一圓十六錢 十一圓二十一錢 十一圓十三錢

二月限 三月限 三千九百五十石 五萬千九百五十石

日露親善

國賓を迎奉る京城の歡喜　丹誠を披瀝す吾人の衷情

▲光榮眞に餘有り　進んで親善の實を擧げよ

農商工部長官　石塚英藏

太公殿下御來朝の御使命は露國皇室を代表して御即位式に對する賀詞奉呈の爲にして殿下には其大命を帶びさせられ曩には京城を御通過あり今又御歸國の御途次當地に御立寄遊され而かも御一泊あらせらる。吾朝鮮に於て斯る高貴の御方を御往復共奉迎し奉るの機會に遭遇したるは實に光榮の至りと云はざるべからず。殿下は露帝の伯父君に當らせ給ひ其と高貴の御身分なるのみならず皇室に於ても樞要の地位に在せらる重ねて光榮餘あるを感ぜずんばあらず

▲十年今昔の感　顧れば既往十年の前には露國と吾國とは不幸にも干戈を滿洲の野に交へたり然も僅々十年後の今日に於ては兩國の關係親善を極め、往年の事今は全く吾人の記憶を去れり、凡そ國際の關係は一國の存立を確保する點に於て各利害の方面を異にし從つて主張の差ありて時に或は正邪曲直を兵火の上に決することある可きは已むを得ざる事なれども兩國が假令一時たりとも曾て双方不幸なる國際關係を生じたりし事は寔に遺憾の極みにして畢竟是れ兩國共に意思の疏通を缺ぎ眞意を諒解せざりしが爲めなりしに由らずんばあらず

▲露西亞の研究　露國が吾國の國情に精通せざりしか否かは姑く措き、吾國民が露國の國情に通せざりしことは爭はれざる事實なり由來吾國は米國又は西方歐羅巴各國の風俗並に民情に就ては比較的に精確なる調査研究を遂げ居たれども獨り露國の事情に就ては多く知る所なかりき辛うじて調査研究の緒を開きたる者あるも而も寥々として曉天の星も啻ならざりき惟ふに露西亞は亞細亞大陸の大半を占有するが故に直接吾國と接觸の機會多きのみならず幕府の末葉にありては彼我交渉の頻繁を極めたる時もあり殊に今日は大陸に於て我國と共國境を接するに至り貿易關係の進展と共に兩國民の接觸愈々密に交情益々親しきを加へ來れり

▲日露親善の實現　故に今後日露の親善益々深甚を極むると共に官民共に友邦の國情を究めんことに努力し以て兩國民善隣の交誼を重ね其の國語を習得し國情を明かにするに於ては即ち玆に初めて日露親善の實を最有効に擧ぐるに至るべし、理想よりすれば十年前に於て吾國民に此心懸のありたらんには日露戰爭の如き不祥事を惹起せずして濟みたらんに全く吾國民の隣邦露西亞の研究を閑却したるが爲め此事ありしを遺憾とす左れど既往はこれを追ふ可らず、進んで將來に向つて努力せば以て可なりとす、殿下の日本に御滯在中は我皇室は素より官民の熱心なる御歡待は即ち國民の至誠の披瀝せらるゝ所なり、京城御一泊の後ち長途の御旅程も御恙なく芽出度く御使命を全うさせられて御歸國あらせられんことを吾れ人共に祈り奉る。

▲日露貿易促進の急務　遠大の計を樹つる今日に在り　・以て經濟的連鎖を鞏くすべし

朝鮮銀行理事　水越理庸

■彼我同慶の極也　日露の國交が日に益々親善に赴くを見る、洵に彼我同慶の至なり。殊に歐洲戰爭の開かれて以來其の著々事實に顯はれ來るもの蓋し兩國民の誠意が相互に貫徹したる結果に外ならざるべし然れども由來我邦の文明は精神的に大なる發展を致したるに拘らず、未だ物質的文明の歐米先進國に及ばざるもの多く、從つて露國に對する吾人の誠意を發揮する上に物質の充分之に伴はざるものあり、戰時中露國に對する供給等の完全を期し難きは甚だ遺憾とする所也。

■誠意を貫徹せむ　歐洲の戰爭が何時まで繼續すべきやは何人も容易に豫期する能はざるも、尙ほ相當年月を繼續すべき事だけは今日の形勢に鑑み之を豫期し得らるべし。此間に於て吾が經濟界は幸にして金融緩漫に、財力豐富なるの狀にあるが故に、今より充分の準備を整へ、此の機會に於て我が工業の發達を企圖し、出來得る限り軍需品を始め露國の必要品の供給に努め、以て吾人の誠意を充分に表する所あるべき也

■寧ろ遠謀を要す　斯の如きは聊か悠長なる考に似たれども、彼の英國の例を見ずや、キチナー將軍は獨逸と開戰後幾何もなくして、此戰爭は三年に亘るべきを斷言し、而して英國の爲す所を見るに現に今日より彼兵を募りつゝあるに非ずや、現在我邦が充分餘裕ある資金を有する爲めに、計畫其宜きを得ば以て戰時中の需要に應じ得べきのみならず、更に工業の基礎を確立せんか、戰時及び戰後に於て我工業的生産の增進と共に露國を始め他國に對する輸出を盛ならしめ、獨り我邦を利するのみならず又他國を利するに至るべし何ぞ悠長の計と謂はむや。

■朝鮮の軍需供給　翻りて我朝鮮と露西亞との關係を軍需品に就て見るに、永登浦の皮革會社に於ける靴及び彈藥盒の供給は即ち露國に對する直接の供給にして、殆ど唯一の供給なりと云ふべし。而して此の朝鮮産軍需品の彼國に於ける評判は殊に良好にして我邦より供給せるものゝ中にて最も重用せられ居ると聞く、朝鮮側として愉快至極と云ふべきなり。

■商權の交綏　更に朝鮮と露領との關係を見るに、帝國の商權滿洲に伸暢せるが爲め、我が商業の範圍は露領と相接するのみならず、國際的に於ては相互に交錯の關係にあり、故に日露兩國人は彼我双方の利益の爲めに大に親密の交誼を結び愈々益々貿易の增進に盡力すべきは當然の事と謂はざる可らず。我日本人殊に朝鮮等に在住する者は最も日露の貿易に着眼し、自ら利すると共に亦彼國人をして利する所あらしめんことを望みて已まざるなり、吾等銀行者たるもの、日露貿易に從事する人々に對しては飽くまで後援を與ふるに吝ならざるのみならず、欣んで其の希望に應ぜんことを期す。

■彼我商業的接近　如何に日露の貿易を促進せしむべきやに就ては日本人側のみならず露西亞人側に於ても熱心考慮しつゝあるは諸方面に之れを認むるところなるが殊に最近の消息として紹介すべきものあり、ペトログラードに露日協會なるものあり、その會長コツフツオフ伯より先般書翰を寄せられ露日協會附屬の商業調査部に於て日露兩文の雜誌を發行し以て日露貿易の發展に資せんと欲す、就ては之が購讀及び廣告に應じ呉れずやとの依頼を受けたるが、尙ほ此の雜誌に關しては東京の日露協會並に本野大使等よりも充分便宜を計り呉れよとの書面を受けたり、朝鮮銀行に於ても將來此種雜誌に對しては出來得る限り朝鮮の事情を紹介し且つ便宜を計る事となせり。志ある人には好個の參考資料たるべく玆に右の計畫を紹介する次第なり。元來日露協會等の如き日露貿易の發達に關し大に盡力せられんこと吾人の最も希望する所なるが今や東京に於ても將又露都に於ても其機何の落ちもあるに、此雜誌計畫についても其一端を知るべきに非ずや。

■露領對內鮮貿易　今日本內地と露領間の貿易を見るに輸出は明治四十四年に總額三百萬圓なりしものが昨大正四年は十一月までに一躍七千萬圓となり二十三倍の驚ろくべき激增なり。輸入は四十四年の五十萬圓なりしもの昨年は十一月までに（以下昨年の分は十一月迄の數字とす）三百三十五萬圓即ち六倍半を增加せり。更に朝鮮と露領亞細亞の貿易を見るに、四十四年に朝鮮よりの輸出は百五十萬圓なりしが昨年は二百六十萬圓即ち七割五分を增進し、朝鮮への輸入は四十四年の四萬九千圓より昨年は十萬圓即ち倍加を示せり。而して日本より（大正三年迄）の輸出品中最も多きは銅（大正三年迄）の二百七十萬圓に次いで藥劑八十萬圓、織物類菓實等之に亞ぐ、露領よりの輸入品は大豆豆粕等を主とし其他は雜貨なり。又朝鮮よりの輸出品は粳、牛を主とし輸入品は鹽鮭を最とし鮭鱒昆布等海産物と更紗類及び雜貨等とす。

■之を要するに　彼我の貿易關係は今後開拓の餘地充分なるが故に、現在我邦の有する豐富なる資材を以て大に計畫を立て、工業の發達を計り以て吾が同盟國の戰時中に於ける便宜を計り同時に戰後に及んで益々彼我の貿易を盛大ならしめん爲め今日に於て商工業發達の基礎を堅固ならしめんこと頗る急務なるを信ず

吾人の歡喜

其の往路に於て、曾て露國太公グオルギー殿下を玆處に奉送迎するの光榮を有したる我が日鮮人は其の歸路に於て、玆處に再び殿下を奉送迎するの光榮を有す。而して殿下が殊に斯地に御一泊あらせらるゝの一事は、我が日鮮人の歡喜措く能はざる所となす。

殿下の御渡來に對する我が皇室の御優待は暫く措き、我が國民が充分の誠意と熱情とを以て、如何に殿下驩迎に努めたるかは、殿下の充分に看取あらせらるゝ所なるべく。殿下の驩迎に關して表白せし我が國民の誠意と熱情とは、即ち我が國民が、露國民との間に於ける交情の增進を希望する誠意熱情の表白にして。露日國民間の交情は、戰後に於て、驟雨一過、天地清明を加ふるが如く、逐日親密の度を加へ、近時に至りては、他の國難を見る猶ほ我の國難を見るが如く、然り。而して我が國民は殿下今回の御渡來を好機として、更に一歩を進めんと欲する也。

內國人の斯心は、即ち斯地に於ける日鮮人の心なり。而して殿下が往復共に斯地を經由あらせられ殊に我が寺內總督が接伴委員長として常に殿下に侍するに於て、寺內總督治下に在る我が日鮮人は殿下に對し、殊に重縁を有するの感なくんばあらず。惟ふに殿下も亦た、朝鮮が日本の治下に屬せし以來五年間の治績に就ては、即ち其間に於て人文の如何に進歩せしか、其の教育、衞生、殖産、交通等の機關が、如何に發達せしかに就ては、必らず充分に看取あらせられたるを信ず。

吾人は、殿下を奉迎するに當りて、玆に斯地に在る日鮮人を代表して、謹んで前路の平安ならんことを祈る。而して殿下今回の御渡來、而して之れに對する我が國民の誠意熱情の表白が、兩國々交に一進境を劃せんとは、吾人の信じて疑はざる所也。

▲國交敦厚、財的提携　經濟的親善は―　最も有効に提携の實を效さむ

朝鮮郵船會社々長　京城商業會議所會頭　原田金之祐

◆東洋平和の連鎖　日露の親善は『東洋の平和』を永遠に維持する連鎖にして就中支那の如き平和を破る老大國ありて常に列強は其間隙を窺察するの憂もあり、旁々日露の提携は最も緊要の事に屬す、露國は今回の戰亂に逸早く獨逸に戰を宣し世界の平和及び人道の敵を膺懲するの任に當れるは吾人の最も意を強ずる所以にして、此時に當り吾國が出來得る限りの後援を露國に與ふる事は最も機宜に適する處置と云ふ可し

◆吾人歡喜の至情　如斯にして彼我の交情密を加へんとするに際し、露太公殿下には多數の隨員を隨へさせられ御來朝ありて、親しく天皇陛下に御對顔あらせられたる上朝野上下の驩迎を受けさせられ而して我舊蹟景勝の地に御歩を駐めさせ給ひ、斯くて人情山川の双美を褒めさせられたる事は將來兩國の親交に一段の歩を進むるの感なくんばあらず今や御大任を了へさせられ御歸國の途上にあらせらるゝ此の空前の國賓を我等迎送し參らす機會に遭遇したるは洵に衷心の光榮也、而今兩國の交情日を逐うて親を加へなば經濟的關係の亦從て密を加ふべきは勿論也

◆經濟的提携を期す　由來日露間の貿易關係は他の歐米列國に比して甚だ疎隔の感を免れざりき、需給の狀態不明なりしに因るべしと雖も今次軍需品其他日用品の供給に依りて日露貿易の大なる門戸が開かるゝに至る可きは自然の歸趨なり、若し幸にして此狀態を持續し從來露西亞が獨逸に仰ぎたる多數の化學工業品を驅逐して之れに代ふるに日本產品を以てするに至らば日露の關係は粗より密に入り、進んで經濟的の提携となり、玆に車の双輪の如く不可分的の盟約を生ずるに至る可しと信じて疑はず、吾人は此理想の實現せられんことを鶴首期待するもの也

▲朝鮮に於ける斯光榮　貿易の發展と交通路の開拓

三井物產京城支店長　高野省三

日本人として此の朝鮮に露國太公殿下を迎へ奉る事は最も光榮とし永く記念すべき所にして吾人衷心の誠意は必ず露國上下の諒とする所なるべきを信ず

◆國民間の結合　歐洲戰亂の結果日獨戰爭起り、日英露佛間の提携を來し、殊に歐洲開戰と同時に日露の人心大に接近し、精神上の結合は驟て軍需品の供給其他の物資の供給となりて現はれ、斯くて物質上の結合を生じ、其の範圍愈々廣く其程度益々高まり來れるを見る。而して露太公殿下が今回日本を御訪問相成りし事は、更に兩國の精神上の結合をして最も深からしむる最大源因たるべきを信ず

◆提携と貿易　兩國の人心が結合したる結果は種々の方面即ち經濟上、貿易上、將又財政上に現はれて、互に相扶くるに至るは自然の歸嚮たるべく、我邦としても出來得る限りの後援を露國に對して與ふるを辭せず、又其の然らむことは吾人の誠心希望して已まざる所なり。聊か政治上の論に傾きたれども、思ふに根本的に考究すれば歸著する所は右に出でざるべし。而して吾人貿易業者側より考ふれば、露西亞は世界の大國にして其人口は二億を超え、物資の供給の如き之を多方面に仰ぎつゝあり、東洋方面より直接間接の供給も亦決して鮮少にあらず

◆黑海航路如何　日露親善の結果として我邦よりの物資の供給が大に增進するに於て玆に日露貿易上一大缺陷とすべきは兩國間の運輸交通の未だ至便ならざる事なり、東洋方面より露本國に向ふ貨物の通路は西伯利線を經由するもの、海路より佛英或は獨等の諸國を經由する二線を出でず、今後平和回復の場合を考へ又永遠の將來を慮るに當り、兩國間の交通路を開拓し以て貨物の移動を圓滑ならしむるは急務の一となすべし、西伯利線の如き未だ充分なる貨物通路となす能はざるを以て、露國南部黑海方面の一開港場と日本及び東洋諸港を結付くる交通路を開き以て海路直ちに露本國に到らしむるは最も必要事たるべしと思ふ、斯くの如きは或は容易に其實行の期し難き事情もあらんが、充分調査の價値はあるべしと信ず、若し吾人の此希望が好都合に解決するに於ては日露貿易を發展せしむる上に至便なるべしと思はる、太公殿下を奉迎するに當りて日露貿易問題について平素抱懐せる所の一端を述べ歡迎の微意を表せんと欲す、太公殿下御歸國の一路平安ならんことを祈る

◎日滿聯絡貨物運輸　昨年中の成績

▲輸送總量　朝鮮及び日本內地と北滿洲及び露國沿海州地方との聯絡運輸は大正三年十一月一日より施行せられ昨大正四年中に於ける之が輸送數量は左の如し

朝鮮發東清線着	六六二噸三
東清線發朝鮮着	―
日本內地發朝鮮經由東清線着	五三六六噸九
東清線發朝鮮經由日本內地着	四噸〇
合計	六〇三三噸二

之が一箇月平均は五百〇二噸八分なり之を大正三年中の成績に比較するに朝鮮發は三百三十六噸增、朝鮮着は三十三噸減、日本內地發は三千三百六十九噸增、日本內地着は二噸增、總量に於て三千五百五十四噸增即ち七割三分強の增加を示せり今大正四年に於ける月別の輸送量を示せば左の如し

	朝鮮發（噸）	朝鮮着（噸）	日本發（噸）	日本着（噸）	合計（噸）
一月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
二月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
三月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
四月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
五月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
六月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
七月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
八月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
九月	[illegible]	―	[illegible]	三八	[illegible]
十月	[illegible]	―	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十一月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
十二月	[illegible]	―	[illegible]	―	[illegible]
合計	[illegible]	―	[illegible]	四〇	[illegible]

本表中三月より四月に亘り日本內地發數量の比較的多かりしは四月の十四、十五日は露國に於ける耶蘇復活祭にして恰も我が正月に相當し商況の殷賑を極むるに因るものなりと云ふ又九月十月と累次增進したるは被服、襟卷等の防寒用具需要季節に當り、尙ほ又十一月に入りたる爲めにして十一月に於て一躍千噸以上に達したるが如きは耶蘇降誕祭及び新年前の商況として一般商況の活氣を呈せしによるものなり（つゞく）

露西亞が戀し

幻花

冷たくも大きく驕き人情の露西亞が戀し露西亞が戀し

われ何ぞ斯く遠く來しを悔るせず更にも遠き露西亞を戀ふる

かゝる夜の雪の白さを思はるれかの西比利亞よ限り無き曠野よ

あゝ露西亞、雪の曠野を驅り行く馬車の鈴より夜は更くるべし

親にはなれ君に離れて唯ひとり雪の曠野に命死ぬべし

◎軍器問題　決議　臨時軍事費追加豫算案外[illegible]

◎法律委員會　上院軍人恩給法改正法律案委員會廿九日[illegible]より施行の事となれり（東京特電）

京城に於ける掛賣取引の改善を計る爲め先般京城實業家相謀り京城實業會を組織し數回の委員會に於て具體的の調査を遂げたる結果二十九日の評議員會に於て[illegible]

一、普通掛賣代金は各商店適當の時日に締切り遲くも支拂日二日以前に請求書を取引先に配布し其月末日迄に決濟を了する樣改善を期す

▲入京　山本旅團長[illegible]

貴族院豫算第一分科會は二十九日午後一時より開會前田利定氏より左の附帶決議を提出し全會一致に[illegible]
政府は[illegible]を異にし[illegible]分として異議なき所なるも其經理に關する方法は會計法規に照し當を得たるものと認め難し依て政府は將來相當の處置あらん事を望む
[illegible]前[illegible]氏贊[illegible]滿場一致原案を可決散會（東京特電）

◎恩給法改正委員會

政府は二十九日官報を以て[illegible]の協贊を經たる國庫出納金端數計算法（厘位切棄）を公布し來る四月一日[illegible]

[illegible]筋見送る

◎掛賣取引決議

[illegible]しむる爲め努力する所ありしが此の目的を洽く内鮮人間に普及せしめんが爲め京城實業會幹事長釘本藤次郎氏外三名により京城商業會議所に建議せるが京城商業會議所に於ては爾の事項を決議し一般會員に周知せしむることゝせり
一、各商店に於て販賣代金延取引の場合には特殊の取引を除く外可成約束手形を以て授受する事
一、約束手形の支拂場所は可成自己の取引銀行を指定する事

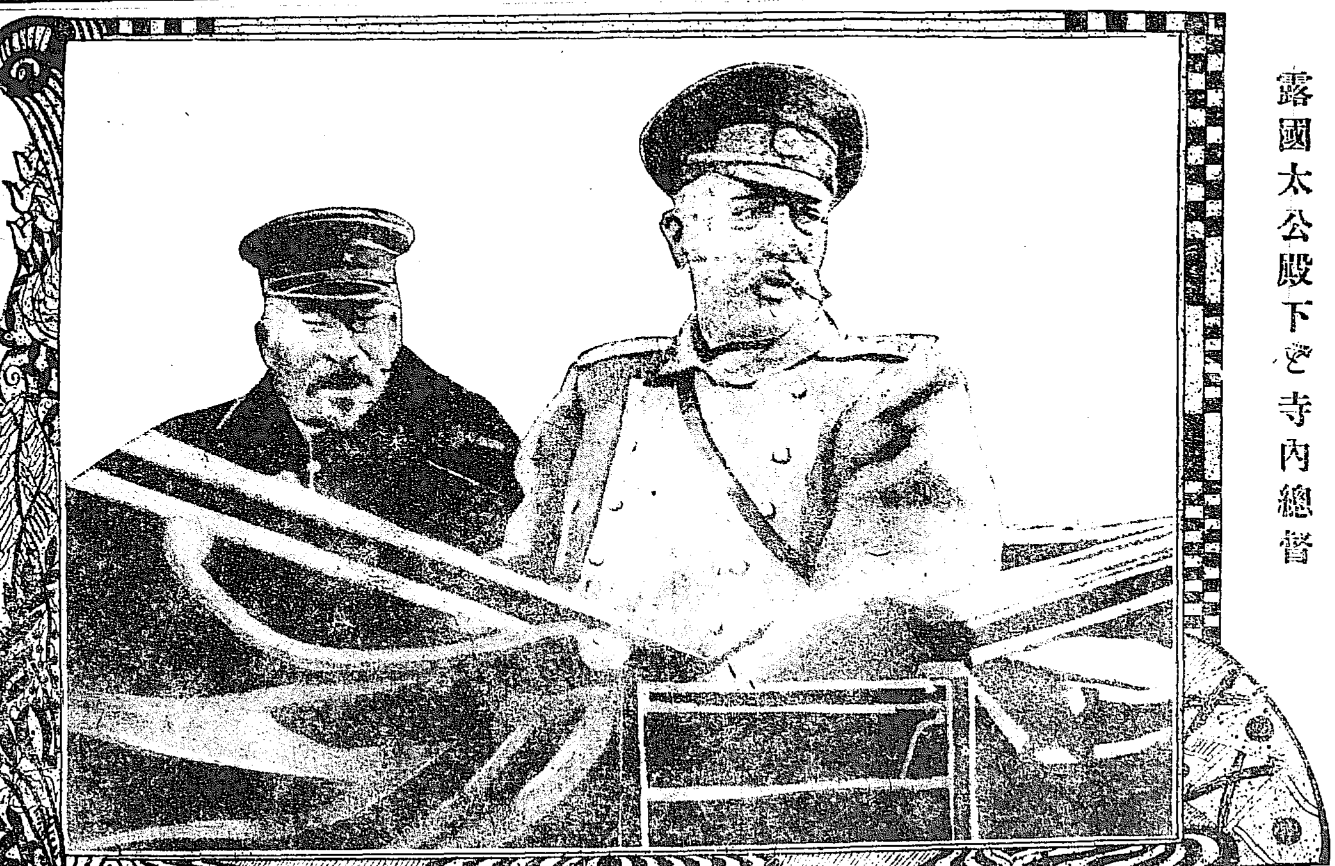
▲人事消息
▲[illegible]二十九日夕入京
▲足利禎氏（青年會副幹事）[illegible]
▲渡邊實二氏（青年會副幹事として赴任） 二十九日夕入京
▲大谷帝太郎氏（海軍少佐） 同上
▲高橋修次郎氏（海軍大尉） 同上
▲入海正麿氏（慶尙南道第一部長） 同上

◎正誤 夕刊第一面「太公殿下京城御著」の記事中第六行目の從者は前行「八名の」の次に入る可きを誤植せしものに付訂正す

◉露國太公殿下御入京

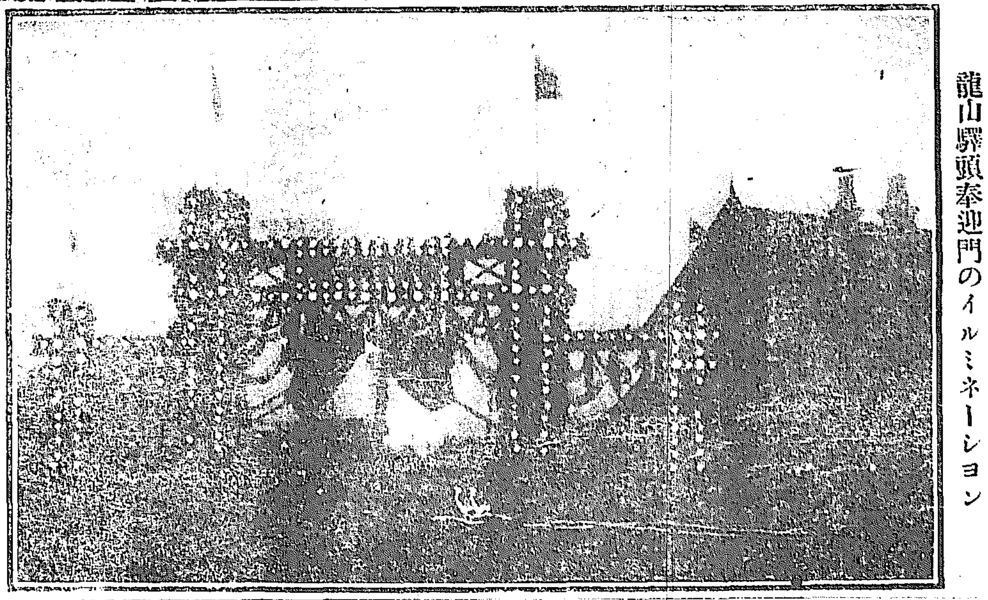
國賓を迎へ奉る市民の悦び

露國皇室の懿親ミハイロウイツチ太公殿下は曩に露國皇帝陛下の御名代として我が 天皇陛下に御即位大典の御祝詞奉呈の爲露都を發し給ひ御來朝の途すがら本月七日午後十一時半を以て我が京城南大門驛頭を御通過遊され官民の熱誠なる送迎を受させられて内地に向はせ給ひてより約二十有三日間無事大任を終へ給ひ二十九日午後六時半と云ふに再び龍山驛頭に御著京城を訪はせ給ふことゝなりたるぞ實に官民の此上なき悦なる


露國太公殿下と寺内總督

▲驛頭奉迎の大緑門

京城の官民は名譽ある國賓を迎へ參らす可く力を盡して數日前より御旅館の設備は更なり各町の大掃除等を斷行して專ら殿下の御著京を待ち奉りたる程に二十九日午後五時頃ともなるや殿下の御著車あらせらる可き龍山驛前には奉迎の大緑門しつらはれその大廣場東側には步兵一箇中隊、驛舍前には槍旗を捧したる騎兵一箇小隊


龍山驛頭奉迎門のイルミネーション

プラットホームには銃劍を持ちたる步兵一箇分隊何れも第一裝服にて警備の任にあたり其他要所々々には憲兵或は巡査を配置して警戒をさゝく怠りなく奉迎の各文武百官は南大門驛發五時三十分の臨時列車に依り、又は馬車自動車腕車等を驅りて續々來著し御著前十分ともなれば折柄の黄昏の景色いと靜かに物音一つだにせず、只驛前に交叉したる日露兩國旗のはたくと飜るを見るのみ

▲御召列車御著

軈て御出迎の人々はプラットホームに入り御著車を待ち參らす程もなく正六時十分二百七十五號貴賓新式機關車に二等食堂車、二等寢臺車、二等客車、一等食堂車、一等寢臺車、貴賓車の六輛を連結したる特別列車は遙なる彼方オレンジ色に暮れ迫る夕闇を衝き滑るが如く構内に徐行し來り第二プラットホームに停車すれば岸龍山驛長進んで御召列車の扉を排し先導し奉り茲に露太公殿下は御機嫌麗はしく客車を下り給ひ三木營業課長また先導を承れば殿下は寺内總督と共に陸橋を渡らせられ第一プラットに降りさせ給ふや階下に整列したる步兵一箇小隊は捧銃の敬禮に對し擧手の御答禮あり續て右側に武官左側に重なる官民諸列して奉迎申上げたる中を一々御叮嚀なる會釋を賜ひつゝ特別改札口に向はせられたり

▲沿道盛なる奉迎

此處には豫て總督府より差廻されたる貴賓用金縁黒塗二頭立の馬車の用意整ひたれば寺内總督御同乘申し上げ矢野龍山憲兵分隊長先驅を承はり騎兵半箇小隊の儀仗兵之に續き隈部警務部長また騎馬にて警衛し奉れば太公殿下には始終御笑を含ませられつゝ沿道奉迎の諸員に御會釋あり次で殿下の侍從武官及び木村式部官、井口軍司令官、立花警務總長、山縣政務總監、殿下の隨員、森少將、中島少將、また各馬車にて供奉し半箇小隊の儀仗騎兵これに殿して沿道の警戒いと嚴重なる裡を電車通りに出て三角地を右に六時二十分御旅館に入らせ給ひたり之れより先き御旅館の玄關前には池邊秘書官、湘山會計課長等御出迎申し上げ殿下の御著を迎へて階上の御居間に御案内し奉り其他の各隨員も夫々の部屋に入り少憩したるが程なく驛に御迎申したる各文武官伺候して御安著を祝し奉り六時三十五分係員の外全部退出したり

▲晩餐の御歡興

かゝる程に七時十分、美しく飾られたる階下の食堂に晩餐の宴を開き寺内總督の御案内にて食堂に向はせ給ふ颯爽たる殿下の御英姿は紅燈の光輝く白蠟石の石階に映えて長途の御旅路に聊か御疲勞の態もなく流暢なる佛蘭西語にて御物語あり絶ず微笑を浮べさせ給ひつゝ食卓に總督と相對して杯を擧させられ各接伴員、隨員等陪食したるが宴は愈々酣にして瑞氣自ら堂に充ちたる八時半頃卓を閉ぢ各員は夫々の宿所へ寺内總督亦官邸に向け退出したるが太公殿下には後種々隨員をお相手に御談笑あり御寢室に入らせられたりとぞ承る

◉眼を海に放て!!

海だく＝練習艦隊司令官 松村海軍少將談＝

曠古未曾有の大戰爭に敵をして未だ一指をも其本國に染めさせない國と云へば唯英國あるのみである是れ海國にして且つ大海軍を有するが故である然も戰ひ既に一年半を經過した今日迄未だ大海戰と云ふ大海戰さへ爲されてゐないのは英の海軍が餘りに偉大なる爲めに換言すれば

◇英獨艦隊の差が餘

りにあり過ぎる爲めに獨艦隊が英艦隊を避けてゐるのだ併し獨逸の海軍も英國大艦隊の勢力を削減しようとして或は潜航艇、或は驅逐艦、水雷艇で以て奇襲に努めてゐる萬一進撃の機を見るに至らば獨艦隊はキールから現出して來る樣な事があるかも知れないが先づ其れはあり得ない事と見るが至當であらう即ち大海戰は

◇終結迄無くて濟む

かも知れない、萬々一獨逸が其艦隊を滅亡させて終つたとすれば其後機會があつても遂に英國襲撃が不可能となる更に又其機に乘じ幾千かの兵をして英本國に上陸せしめ得たとしても後方勤務が不可能となる戰爭に於て後方勤務が出來なくなつたとすれば戰爭を繼續する事が出來ない即ち獨は海軍をして他日要あらしめんが爲めに今恨みを呑んで其主力を遊ばせ枝葉の小艦艇の活動で敵に多少でもの危害を與へようとしてゐるのだ海軍々備の上から言へば獨は開戰い

龍山驛前奉迎の堵列

◇時機が少し早過ぎ

たと言はねばならぬ併し海軍計りで此大戰爭を奈何ともする事は出來ないし其れに其間には又止むに止まれぬ事があつた事は言ふ迄もない一體海軍に於て主力を爲すべき戰艦は恰度陸軍の歩兵の樣な位置にあつて兩國の艦隊が雌雄を決する樣な大海戰は陸軍に於ける城下の盟の如く容易にあり得べからざるものだ故に或る意味に於て大艦隊は單に威嚇の用をも爲す現に戰爭前に於て英の大海軍は幾度と無く

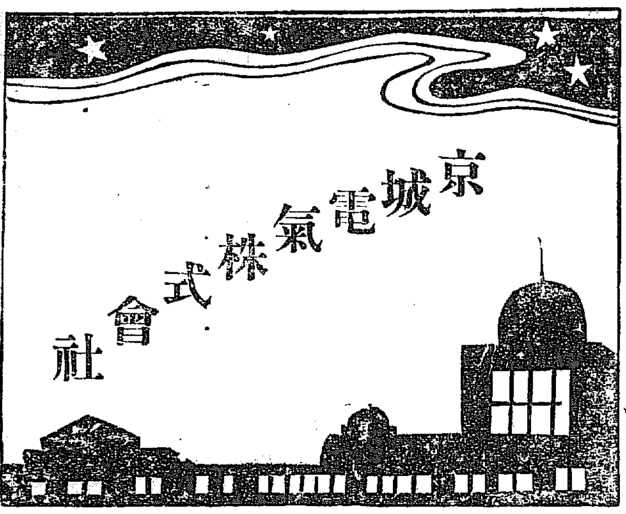
◇如何に大威嚇の用

に供せられたかは圖り知られない＝戰後に於て世界の海軍は如何に爲るかは興味ある問題には違ひないが要するに大變化は有得ない事だ成程潜航艇の活動は嘗て今回の戰爭程充分で無かつた、とは云ふものゝ潜航艇として

◇巨艦巨砲主義に在

る巡洋艦や潜航艇などがいくら橫行してゐても巡洋艦には戰艦、潜航艇には速力の早い輕快な驅逐艇でも出せば問題は無くなる係くて主力は何うしても巨艦巨砲が重大である事になつて來てる現在に於ての巨砲は彈距離一萬五千米突位だが是れは々進んで行くものと見ねばならぬ（つゞく）

一路平安御



三井物産株式會社 京城支店

内鮮出張所在地

旭川派出員　池田派出員　釧路派出員　斜里派出員　野付牛派出員　砂川木挽工場　小樽支店　室蘭派出員　函館派出員　名古屋支店　棉花部　大阪支店　穀物肥料參事

神戸支店　船舶部　東京出張員　小樽出張員　門司出張員　三池出張員　石炭部　岡山出張員　杵島出張員　阪神出張員　廣島出張員　門司支店　若松出張所

唐津出張所　長崎支店　石炭部長崎支部　三池支店　口ノ津出張所　臺北支店　基隆派出員　臺南支店　打狗出張員　臺中出張員　阿緱派出所　仁川出張員　釜山出張員

外國出張所在地

大連支店　安東縣出張所　牛莊出張所　奉天出張所　鐵嶺出張所　長春出張所　哈爾賓出張所　浦鹽出張員　天津支店　上海支店　青島出張所　芝罘出張所

漢口支店　香港支店　福州出張所　廈門出張所　廣東出張所　馬尼剌出張所　斯土泥出張所　新嘉坡支店　磐谷出張員　泗水出張員　蘭貢出張員　孟買支店

甲谷他出張員　倫敦支店　里昂出張員　漢堡出張所　紐育支店　南部出張員　墨西哥出張員　桑港出張所　坡十蘭出張員　聯香坡出張員

東亞煙草株式會社

營業品目

一浦鹽絹並更紗、毛布、石鹼
一レンコート、硝子器、菓子類
一スモークサアモン、キャビヤ、獺皮
一ハンカチーフ、小供前掛、机掛
一チモチヤ切、小供洋服、防寒靴、オオ
一バシユース、洋杖其他各種

毎月一回浦鹽又は哈爾賓に出張致候に付同國名産にて御入用の品は御注文の程奉願上候

京城本町二丁目九十二番地
日露貿易商 青木商會
電話二三八〇番
振替口座二六六九番

大日本麥酒株式會社 關東州鹽販賣代理店
輸入 營林廠阿里山木材 各種 日本關西 海外一手販賣店
サクラビール釀造元 帝國麥酒株式會社 代理店
株式會社神戸製鋼所代理店

京城府南大門通り三丁目
合名會社 鈴木商店 京城出張所
電話二九二四番

和洋紙販賣
印刷製本

朝鮮京城南大門通二丁目
㊀ 土佐紙株式會社 京城支店
電話長三一五番
二二七〇番
電略（一）
振替京城八五九番

營業種目
▲和洋諸紙販賣
▲活版石版印刷
▲各種帳簿製造
▲印刷用インキ販賣

京城永樂町二丁目
播本商店
電話百十番
振替京城二二〇番

株式會社 漢湖農工銀行 京城南大門通一丁目
株式會社 朝鮮商業銀行 京城南大門通一丁目
株式會社 漢城銀行 京城南大門通一丁目
株式會社 韓一銀行 京城南大門通一丁目
株式會社 第一銀行京城支店 京城本町二丁目
株式會社 十八銀行京城支店 京城黃金町二丁目
株式會社 百三十銀行京城支店 京城本町一丁目
株式會社 京城銀行 京城本町二丁目

創立 明治二十九年
資本金 五百萬圓
本店 東京市日本橋區吳服町
株式會社 東京建物
京城支店 京城黃金町
電話一三八一番・一六八一番

營業科目
土地建物抵當貸附、普通建物建築請負、月賦償還建物建築、土地建物賣買紹介、土地建物評價鑑定

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城 朝鮮銀行
電話（四）三三一〇、一二〇六、一六一三
（四）三三二〇、一二六〇
六一二、一二六一
振替貯金口座京城三三三番

支店出張所 東京、大阪、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春

右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

商況

大阪三品

五月限 一二五、四〇 一二五、五〇
六月限 一二六、一〇 一二六、三〇

仁川米豆取引所

▲當限受渡高